

平成 24 年度
(第 8 回)

運 営 諮 問 会 議 報 告 書

平成 25 年 3 月

新居浜工業高等専門学校

は じ め に

新居浜高専では、平成 16 年度の高専機構の独立行政法人化に伴い、従来の外部評価委員会を衣替えして運営諮問会議という形で、外部の有識者の皆様から本校の運営について、様々なご意見を伺ってきております。毎年度一回開催させていただいており、今回は 8 回目となります。

本校は、昭和 37 年に高専の第 1 期校として設置され、創立 50 周年を迎えた昨年に、これまでの歴史を振り返り、今後の在り方を考える契機として、種々の記念事業を行いました。

また、現在、高専機構は第 2 期中期目標期間の 4 年目で、重点課題として、入学志願者の確保、教育課程の編成、優れた教員の確保、教育の質の向上、学生支援、国際交流の推進などを掲げていますが、本校もこの機構の方針に基づいて年度計画を立て、その実施に鋭意取り組んでおります。

入学者の確保に向けては、女子学生への広報の充実や東予地域以外でのサテライトオフィスの設置を進めています。教育課程の編成や教育の質の向上については、全高専共通の最低限教えるべき教育内容であるモデルコアカリキュラムの検討、全高専が参加する数学、物理の学習到達度試験の有効活用なども検討しております。また、愛媛大学主催の S P O D をはじめとする各種 F D 研修会への参加や J A B E E 教育の推進にも力を注いでいます。優れた教員の確保に関しては、高専・長岡豊橋両技科大間教員交流制度の活用、男女共同参画の推進や女性教員の積極的な採用などを進めております。学生支援については、特にメンタルヘルスに関する教職員の意識を高めるために、学内で研修会を数多く実施しています。また、国際交流については、グローバルに活躍できる技術者の養成を目的に、学生の海外インターンシップの実施や海外協定校との学生の相互訪問を拡大しているところです。

これらの取り組みについて運営諮問会議委員の皆様からいただいたご意見やご提言等は、今後の本校の在り方を考える上で参考にさせていただき、本校の改善、改革に役立てていく所存です。最後になりましたが、委員の皆様には心からお礼申し上げますとともに、本校に対して今後とも変わらぬご支援ご協力をいただきますようお願い致します。

平成 25 年 3 月

新居浜工業高等専門学校

校長 鈴木 幸一

目 次

はじめに

1. 運営諮問会議日程表 -----	1
2. 運営諮問会議委員名簿 -----	2
3. 学内関係出席者名簿 -----	3
4. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程 -----	4
5. 議事概要	
(1) ・入学者の確保，教育課程の編成について -----	5
・学生支援，生活支援について	
・学寮運営について	
(2) ・教育の質の向上と改善，国際交流について -----	10
・研究及び社会連携活動について	
・優れた教員の確保，教育環境の整備，管理運営等について	
・新居浜高専創立 50 周年記念事業について	
6. 説明資料 -----	19

平成 24 年度（第 8 回）運営諮問会議日程表

1 日 時 平成 25 年 1 月 17 日（木） 14：00～16：30

2 場 所 新居浜高専第一会議室

3 日 程

時 刻	次 第
14：00	開会 委員紹介 新居浜高専教職員紹介 議長選出 校長挨拶
14：20	議事 1. 入学者の確保，教育課程の編成について -----教務主事 2. 学生支援，生活支援について -----学生主事 3. 学寮運営について -----寮務主事 （質疑応答） （休憩） 4. 教育の質の向上と改善，国際交流について ----教務主事 5. 研究及び社会連携活動について -----高度技術教育研究センター長 6. 優れた教員の確保，教育環境の整備， 管理運営等について -----事務部長 7. 新居浜高専創立 50 周年記念事業について -----副校長 （質疑応答）
16：10	総評
16：30	閉会

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職	備考
石川 勝行	新居浜市長	欠席
小野 幸男	新居浜商工会議所 会頭	欠席
竹内 美明	住友化学株式会社 理事 基礎化学品研究所長	
平田 利實	ユースエンジニアリング株式会社 相談役	
本馬 毅	愛媛県小中学校長会会長 松前中学校長	欠席
増田 拓朗	国立大学法人香川大学工学部長	
柳澤 康信	国立大学法人愛媛大学長	

(代理出席者)

(敬称略)

近藤 清孝	新居浜市役所副市長	
渡邊 哲郎	新居浜商工会議所事務局長	
真鍋 智明	愛媛県小中学校長会常任理事 新居浜市立川東中学校長	

学内関係出席者名簿

職 名	氏 名	備 考
校 長	鈴 木 幸 一	
教 務 主 事	西 谷 郁 夫	
学 生 主 事	安 藤 進 一	
寮 務 主 事	皆 本 佳 計	
副 校 長 (創立 50 周年記念事業担当)	谷 口 佳 文	
専 攻 科 長	新 田 敦 己	
高度技術教育研究 センター長	中 山 享	
機 械 工 学 科 主 任	下 村 信 雄	
電気情報工学科 主任	山 田 正 史	
電子制御工学科 主任	今 井 伸 明	
生物応用化学科 主任	中 川 克 彦	
環境材料工学科 主任	高 橋 知 司	
数 理 科 主 任	大 村 泰	
一 般 教 養 科 主 任	塚 野 修	
学生相談室長	野 田 善 弘	
ものづくり教育支援 センター長	松 田 雄 二	
事 務 部 長	五 味 久 和	
総 務 課 長	泉 紀 江	
学 生 課 長	井 手 克 美	

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成24年11月27日規程第6号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

(運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

議 事 概 要

議事及び質疑応答の概要

議事

- (1) 入学者の確保，教育課程の編成について
- (2) 学生支援，生活支援について
- (3) 学寮運営について

【柳澤議長】

それでは，議題 1，2，3 に関しまして，ご質問・ご意見を委員の方からお願いしたいと思います。

【平田委員】

中学生の入学希望を高められ，色々と努力されていて数字が上がって来ていることは凄いことだと思いますが，学校行事で，ロボコン，プロコン，デザコン等ありますが，それを民間のマスコミや民放テレビの密着取材とか，そういうドラマと一緒に作るとかして，もう少しPR活動に繋がっていくことがよいのではないかと思います。

【安藤学生主事】

ありがとうございます。学生たちは非常によく頑張っているのです。そういう形でPRをしていきたいと思っております。

今年は，特にロボコンでベスト・ペット賞を受賞したチームが女子学生のためのメンバーで参加いたしまして，それが非常に話題になり，NHKでも特別に取材をしていただいた事もありました。

今後も，そういう話題になることをアピールしていきたいと思っております。

【柳澤議長】

はい。どうぞ

【真鍋委員】

女子学生の話題がありましたけれど，中学校でもそうなのですが，男子生徒はあまり元気がなくて，女子生徒の方が非常に元気です。それで，小学校へ「男子のリーダーを育ててほしい。」というようなことを毎年依頼しているような状況で，今後女子生徒が高専に入学したとして，もっと活躍していることが考えられます。ただ，進学・就職先のことが説明されていたのですが，こんなに女子生徒が頑張っている時に，受け口というかそれが実際にどうなっているのか。女子が頑張っているのに，それだけの受け口があるものかというのと，先程説明にありました寮の問題。これからも女子生徒が頑張りを，入学が増加してくるのではないかと思いますので，寮の問題についても一度聞きたいと思いました。

【柳澤議長】

はい。今の質問について。

【西谷教務主事】

女子寮については、新設は予算的にできないと思われますので、何とかあと何十名か収容できるように、男子寮を女子寮に改修する、という検討はしております。

女子の就職については、求人が多いと言いましても、やはり毎年苦勞しております。企業訪問をしてお話を伺うと、最初の一人目の女子学生を採用することに抵抗があるようです。男子学生と同じように女子学生も勤務できるというようなご説明をして、ご理解いただいています。少しずつではありますが、そういう努力はしております。

【柳澤議長】

はい。どうもありがとうございました。

【増田委員】

大学に勤務しているものですから、高専のことを詳しく知っておきたいので伺います。入試倍率が1.8倍ぐらい欲しいということですが、高校で1.8倍というのは、いわゆる普通高校からすると非常に高い倍率と思うのですが、合格しても辞退するようなことがあるのでしょうか。

もう一つは、物理の点数が非常に、全国的に見ても低かったのが、ここ数年上がってきているのは、何か対策を採られているのか。以上2点をお伺いします。

【柳澤議長】

はい。お願いします。

【西谷教務主事】

本校では、合格者の入学手続き日を公立高校の入試日と合わせており、その時点で本校へ入学を決断してもらっています。辞退しづらいタイミングだと思います。また、中学校側のご指導もあり、ほとんど辞退はありません。数年前に1、2名いたくらいで、合格者はほぼ全員入学していただいております。

それから物理の点数上昇についてですが、これは科目担当の先生の色々な工夫と努力の結果だと考えております。

【柳澤議長】

他どうでしょうか。

【竹内委員】

女子学生の採用について、我々企業サイドといいますか、産業界全体で言いますと、やはり女子の力の活用は、非常に重要なテーマだと思いますし、住友化学という会社の中でも積極的に潜在能力のある方は採用したいし、会社としてもどんどん登用していくというような方針です。

今回女子学生の広報にも力を入れているということですが、この資料を見させていただくと、ここで作られている「キラキラ高専ガールになろう!」というのがロールモデルをうまくまとめられて、非常によい冊子だと思うのですが、実際に高専で広報活動をされている時に、女子生徒

に対して、ターゲットとしてどのようにされているのか。意見としては、女性の目線といいますか、そういうことも考えたうえでの広報活動、そういう目線を入れて広報活動をされることもポイントではないかと思います。

今、この会議を見ても女性職員がまだ一人だけという状態のように思いますので、女性教員の採用ということも、冒頭お話がございましたが、そういうことも含めて、取り組みについてお聞かせ願いたいと思います。

【柳澤議長】

はい。これに関して。鈴木校長の方から。

【鈴木校長】

先程説明しました男女共同参画推進室というのを作りまして、特に、女子学生が増えているということと、それに対応して女性教員の待遇改善あるいは新規採用を進めるということと、高専機構全体でも新規採用の20%以上は女性をということがありまして、今後の少子高齢化の中で女性の力をいかに活かすかというのが、活性化させるキーワードの一つですので、それに向けて取り組んでおります。

本校でも今回教員を採用するにあたって女性を歓迎するという募集をいたしました。その中で30名くらい応募があつて、一人だけ女性がいたのですが、その人が非常に優秀だったので、採用することができました。そういうように本校では積極的に女性教員採用という方針で進んでおります。

【柳澤議長】

今、この点について、追加の質問をしてよろしいですか。

新しい教員については20%女性を採用しなさいという高専機構全体としての方針だと思うのですが、高専として女子学生数のパーセンテージの目標値を掲げているのですか。

【鈴木校長】

特に目標は無いですが、女子学生を増やしなさいということで、パンフレットを作ったりしております。ただ、本校は生物応用化学科と環境材料工学科に女子学生がたくさん入学していただきまして、全国でも女子学生数が多いという状況にあります。22.8%ですか。機械系とか電気系の学科がほとんどいませんから、そういう状況にあります。

【柳澤議長】

はい。ありがとうございました。他いかがでしょうか。

【近藤委員】

私の方からお願いがありまして、この3月に駅の北側に駐輪場が完成します。この駐輪場を建てた目的の一つに、放置自転車の撲滅というのがあります。有料の駐輪場ですが、3月に完成するというので、また改めて、高専の方に担当の課が訪問して、学生さんをお願いするという対

応をお願いしたいと思っておりますので、その際は、よろしくお願いしたいと思います。

【柳澤議長】

はい。どうぞ。

【安藤学生主事】

ありがとうございます。今のご発言の内容は、既に連絡を受けていますので、またよろしくお願い致します。

【柳澤議長】

はい。それではちょうど予定していた質疑応答が時間になりましたので、ここから約10分間休憩に入ります。

議事

- (4) 教育の質と改善，国際交流について
- (5) 研究及び社会連携活動について
- (6) 優れた教員の確保，教育環境の整備，管理運営等について
- (7) 新居浜高専創立 50 周年記念事業について

【柳澤議長】

それでは，議題 4 から 7 の新居浜高専の取り組みについて，ご質問・ご意見があればお願いします。

【真鍋委員】

社会連携について，専門的なところが少しわからないので，一つお聞きしたいのですが，海外派遣事業というか，研修で海外へ行くというようなことですが，新居浜市の中学生の海外派遣事業で，今年もアメリカの方へ行くのですが，21 名の内で，1 年生男子 2 名であと 19 名が女子生徒でした。

これは年々そういう傾向があつて，男女共同参画というようなことが出てきているのですが，中学校の場合は逆の現象で，男子生徒を増やしていかなければならない。この冊子を見ていると，やはり女子生徒が非常にたくさん写っていて，実際に中学校ではそのような現象が起きていて，高専では海外への派遣事業の時，どうなのかということをお聞きしたいと思います。

校長先生が海外へ全員派遣した方がよいということも考えているということもあるのですが，男子生徒の場合は，強引にでも 1 回は海外へ行かせるというようなことがよいのではないかと説明を聞いて感じました。

もう一つは，あまり大きく出ていませんが，毎年，高専において中学校の理科と技術科の先生を対象にものづくり研修会を行っていて，私も参加させていただいているのですが，そういうところで高専の先生方が色々と工夫して，毎回提示してくれて非常に勉強になっています。その時に懇親会も行っていますが，そういう会の中での交流と言いますか，人間関係作りとか，非常に活かされているのではと思います。

ただ，出前講座については，今年も 2 回程来ていただきましたが，中学校も小学校も非常に授業数が増えて，教科の内容が増えていることもあり，実際にお呼びできないような現状になりました。ですから，今年 2 回来校して，本当に数名のクラブの部活動のところで支援いただきましたが，やはり，そのような影響で回数も減ってきているのではないかと思います，そのこともお願いします。

【柳澤議長】

ただいまの指摘・質問について何か高専でお答えいただけるでしょうか。

【西谷教務主事】

女子学生を増やそうということで，女子学生が写っている写真を多くパンフレットに出すということはしています。確かに女子が元気であるという傾向は見られるとは思いますが，今のところ

ろ海外研修については特に心配はしていません。参加状況は半々か、男子が多いのではないかと思います。

中学校の出前講座について、中学校の授業数が増えて受入れが難しいということですが、高専としては中学校側のご負担にならない範囲で、活用していただけたらと考えております。

【柳澤議長】

先程のできれば学生全員をとにかく一度は海外へ出したいという検討をされているということですが、見通しはいかがでしょうか。

【西谷教務主事】

教員全体の意見がまだ揃っていないと思います。積極的な考えの方と難しいだろうという方とあって、私自身の感触ではすぐに実現は難しいと思います。コンセンサスを得ていきたいと思っております。

【鈴木校長】

補足しますと、結局色々な形がありまして、例えば海外インターンシップは、高専機構が実施しています。それと、交流校に参加学生を募集しますが、今年は今までサザンクロスが20人だったのが40人近くになったりと増えています。それから、個人で行くような学会発表とか、修学旅行のような形で行きたいという希望もありますから、もしそういうことであれば、いろんなパターンで海外へ行くということができ、費用の面が一番問題になってきますが、必ずしも強制的にというわけではなく、自主的に5年間で必ず海外で何らかの経験をするようにという方向はそんなに難しくはないと考えています。ただし、すぐになると、少し難しい点もあります。

【柳澤議長】

はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【渡邊委員】

インターンシップの実習先についてお伺いをさせていただきたいと思います。実習先としては、県内半分、県外半分ということだったのですが、学科によっていろいろ違いはあると思いますが、例えば本科4年生の機械工学科であれば54名のうち28名が愛媛県内ということでした。

新居浜市内にも、例えば機械工学科に限りますと企業の大小はありますが多様な企業がありますので、できれば市内企業でインターンシップができないものかと考えております。市内企業では、受入企業が少ないためなのか、あるいは、受け入れる体制が十分でない、規模も含めてそういった体制ができていないためなのか、あるいは、学生さんの方で就職したい企業を希望されるためなのかとか、市内企業でのインターンシップが少ない理由があるのかどうか、もしわかれば教えていただきたいと思います。

【中川生物応用化学科主任】

ありがとうございます。新居浜機械産業協同組合とは昭和60年頃から色々交流させていただ

いて、インターンシップをお願いしています。東予産業創造センターもできて、お願いはしていますが、企業の方でしっかりしたカリキュラムというかそういうものを作っていくことは難しいということをお聞きしております。でも、以前に比べたら次第に増えてきているのも現状でございます。

先程ありました女子学生ですが、女子学生に対する受入体制ですが、わずかですが、少しずつ増えていっております。

女子のいいパワーを、「キラキラ高専ガールになろう！」というですね、そういうパンフレットを持って、企業の方も、我々も売り込みに回っております。それで少しずつ増えている企業もあると思います。

【鈴木校長】

補足をしますと、私も新居浜に来ていろいろ企業を回らせてもらって非常に技術の高い企業がたくさんありました。

それがむしろ、世の中に知られていないというか、あるいは我々自身も知らなかったということで、それも合わせて、あかがね工業博というのを実施しまして地元の企業にこんなものがあるというのを発表しましょうということで、そのような努力はしております。

だから、高専はなるべく地元の企業に優秀な学生が就職してもらいたいと思っていますので、採用する企業はたくさんあるということをもう少し積極的に高専内でもPRしたいし、学生にもPRします。それと、是非地元の企業が高専を知っていただく機会を今後とも増やしていきたいと考えております。これは、代々の新居浜市長から、高専の学生をできるだけ地元に残してほしいというような要望を受けていますので、ご指摘のありました商工会議所からのご発言を重く受け止めたいと思っております。

【柳澤議長】

はい。どうぞ。

【増田委員】

インターンシップも国際交流も研究でも、大学の工学部にあることと同じことなのでお聞きしたいのですが、国際交流の説明で言われた学生になるべく海外体験させたいけれど、実施するには、いろんな課題があると思いました。

もう一つは、海外へ行くだけじゃなくてやはり英語能力は高めていかなければと思いますが、そのあたりの取り組みはどんなことをされているのか。

あるいは、TOEFLとかTOEICのようなことを必修と課しているのか。どのくらいかということ、わかる範囲でお教えいただければということ、もう一つ。大学は科研費に応募することが義務で、100%申請するというのがあって、申請しないとペナルティがあるということになっていますが、もちろん、採択されることも条件ですが、高専の先生は年間の研究費なんかはどのくらい配分されているのか、あるいは、一人でやるとなかなか大変だと思います。そういう意味で、研究のグループ化というみたいなこともされているのか、その辺の事も教えていただければと思います。

【柳澤議長】

学生の英語力向上の話と、教員の研究の話、主に二つに分かれると思うのですが、どなたか。

【西谷教務主事】

前半の英語力については、頭を痛めておりまして、モチベーションを上げる意味で、海外体験ということを考えています。現在、5月に TOEIC IP を4年生あるいは専攻科生全員に受けさせています。2回目の11月には、1, 2年生、専攻科生全員とその他希望者に TOEIC Bridge または TOEIC IP を受験させています。義務付けをして、全員になるべく受けさせるようにしております。得点は年を経過するごとに上がってきていますが、まだ満足いくところまでいっていないという状況です。

【柳澤議長】

はい。それでは、研究に関すること。中山先生どうぞ。

【中山高度技術教育センター長】

研究環境の回答になりますが、まず科研費については100%なぜ出せないかということですが、15年前には、全員出すように言って、命令でしていた時期もあります。ただし、こういったことはなんですが、同じものを繰り返し出す方がほとんどになるので、実質、獲得は上がっていませんでした。

その頃、先程言いましたように、科研費を含めた外部資金の獲得が全国の高専の中で上位にありまして、それで安心していたというか、全員申請しなくてもいいだろうということで、そうしているうちに採択率が悪くなってきて、お金も入ってこないという状況になっていますので、ここで立て直しをしようとしています、今ひとつです。以前は、申請しないとペナルティで、年間の研究費から10万円カットするということもありました。

年間の研究費が1教員あたりでどれくらいですかという回答ですが、教育も含めて約30万円から40万円くらいになります。

研究のグループ化についてですが、高専は単独で研究室を持っているというのが1つの特長であり、ある意味ではよいかもしれないと思います。自分の好きなテーマを選ぶことができるという点です。これは、私個人の意見ですが、どちらがよいとは言い切れないと思います。

ご質問にありました「それではグループ化でやってないんですか」ということですが、高度技術教育研究センターの設備を使う場合は、学外との共同研究があるとか、学内の場合は違う学科の教員と共同でやらなければならないことにしています。また、外部資金を入れないといけなかったとか、科研費及びもう1つの外部資金への申請をしていないといけなかったとか、いろいろ制限をかけています。それらを実施していると、研究する場所とか設備とか、学校側が面倒を見ますというシステムにはなっています。研究をよくされる教員は学内でグループ化するよりも、大学や企業とグループ化される方が多いです。10名ぐらいいます。学内でもやればよいとは思いますが、やはり外の違う空気の人といろんなことをやっている方が多いということになります。以上です。

【柳澤議長】

はい。どうもありがとうございます。他いかがでしょうか。はいどうぞ。

【竹内委員】

私自身、目新しい言葉で、「エンジニアリングデザイン」という、教育センターという組織の話ですが、教育センターを組織されるというような背景・目的ですが、具体的にどういう取り組みが考えられるのか。もう少し詳しくご説明いただけたらと思います。

【柳澤議長】

はい。どなたか。

【松田ものづくり教育支援センター長】

ものづくり教育支援センターの松田でございます。ものづくり教育支援センターにおきまして、主事の説明にありましたように、実は箱物といいますか、その活動をする場所がございませんので、そういったものを、機械実習工場という場所を利用して、それが少し古い建物でございますので、改築も視野に入れて、少し全学的な共同利用施設にしたかどうかということが発端でございます。それで各学科のイベントで例えば化学のイベントでしたら、生物応用化学科棟の実験室を使用して、電気だったら電気科の実験室を使用しているのですが、それを一元化して、そういった実習工場を改築して、さらには、全学科共有のものづくり支援組織を作りたいということです。それで学内では、授業の中でも実験・実習はもちろんですが、課外活動では、本校学生へのものづくり教育支援、さらには、土曜塾とか、サイエンスカフェというような、最近、全国的にも流行っていますけども、そういった地域貢献にもそういう場所を提供していくということで、会場ごとに、「今日は電気の実験ですから、電気科の棟に来てください」とか、「化学科の棟に来てください」ではなくて、「エンジニアリングデザインセンターにお越しくください」というような窓口的なものを含めて、学内あるいは地域貢献に活用したいという意味での組織化ということでございます。

【柳澤議長】

私が少し補足するのも変ですが、たぶん竹内委員が言われた中に「エンジニアリングデザイン」という名称のセンターという言葉の中に込められている目的とか、そういうものもお聞きになりたかったのではないかと推測して、もしその辺お答えできるのであればお願いします。

【松田ものづくり教育支援センター長】

ものづくり教育の現場でございますので、そういったもので、将来的にエンジニアを育てていますが、それプラスものづくりをイメージした形として、それを表現した時代にあったキーワードかなということで出たものでございます。

【柳澤議長】

何かございますか。

【鈴木校長】

「エンジニアリングデザイン」というのは、一言で説明するのは難しいのですが、高専機構全体が「エンジニアリングデザイン教育」というのを柱にしております。これは設計から実際世の中に役立つまでに、そういういろんな能力が全て身についている技術者を育てようということです。

ものづくりの総合的な技術者を作ろうというのが「エンジニアリングデザイン教育」の柱だと思います。考えている「エンジニアリングデザイン教育センター」では、設計から製作、販売までのプロジェクト研究を設定して、総合的にまとめられるという技術者を、高専内だけでなく外部の協力を得て育てようとするものです。

【柳澤議長】

デザインとかいわゆる芸術デザインみたいな設計をするというよりは、企画とか構想を練って計画を立てて企画していくみたいなことで、そういう全体的なことが見通せるマネジメントできるみたいなそういう意味での「エンジニアリングデザイン」と言われているのだらうと思います。

【竹内委員】

わかりました。多分そうだろうなと思います。ものづくりだけは上手いのだけど、それに特化するだけじゃなくて、全体を見回してビジネスも含めてプランニングできるという能力、そういうのは非常に重要なところだろうと思います。やはり一種の箱物と言っては悪いのですが、そこからスタートされるという場を作っていくということです。

【柳澤議長】

はい。他いかがでしょうか。

【平田委員】

国全体の方で、政権交代とかありまして科研費などの外部資金獲得ですが、J S Tが仕分けで一旦消えました。いろいろ影響があったのかというのが一つと、今度新たに何か期待できそうな予感がございますか。

【柳澤議長】

鈴木校長の方から。

【鈴木校長】

確かにJ S Tの地方枠がなくなり、四国地方で得られるような資金がなくなって、非常に厳しい状況にあると思います。

【中山高度技術教育研究センター長】

民主党になった時に、J S T関係の予算が削られました。シーズ発掘という、地域で採択を決めるようなシステムもあり、この時は更にその採択されたテーマでめばしいテーマに四国地区だ

と1件から3件ぐらい実験の進み具合によって1000万円の追加分がありました。元々採択額が100万円しかないのに、更に1000万円そのテーマに出しますというのがあって、実は本校もその時予算が来るというのがわかっていたのですが、民主党政権になった途端にあの話は無かったという連絡が次の日にありました。民主党が悪いわけではありませんが、その時に一気に予算が減りました。それで今回復活するかということですが、JSTの地方枠はおそらく復活しないのではないかと思います。JSTはご存じのように、現在は東京本部に全部まとめられています。審査も科研費と同じように厳しくなっており、今は実力主義になっています。金額は増えるのは間違いないですが、それに見合ったテーマを作る、もしくは、地元企業さんと組んで共同申請するなどを考える必要があると思います。先程話のあった関西化工さんとの仕事というのは、それを狙っていました。全国規模の大きなお金を取りたい。それを取るためには実績が無いと取れないということを聞いています。そのために愛媛県だと、「三浦保環境賞」というのが結構権威ある賞なので、そういうものを受賞したテーマという前提があれば、全国に出した時に採択される確率が高いんじゃないかということで、関西化工さんとそういう地盤作りをやっているということです。お金はある程度出してくれるのですけど、やはり戦略をきちんとしないと新居浜高専にお金が来ないだろうと思って頑張っています。

【柳澤議長】

はい。お願いします。

【近藤委員】

優れた教員の確保という中に女性教員の比率を高めるということがありまして、その働きやすい職場環境の充実というように言われていますが、今の状態で言いますと、まだ2割には程遠いということでゆくゆくは改善されていくのだらうと思いますが、男性教員の育児休暇の取得率というのは、今までの状態の中でどうなっているのかということのと、もう1点は、今年の4月から障害者の雇用率のアップということになっていますが、高専自体どういう率になるのか、法定雇用率がいくらなのかは聞いてませんが、現状の障害者の雇用率というのが、もしわかれば教えていただけたらと思います。

【五味事務部長】

男性教員の育児休暇率というのは、私が知る限りでは、新居浜高専では無いと思います。それで先程校長からも話があったと思うのですが、本校でも10月に男女共同参画推進室を立ち上げて男女ともに育児をしている職員については、何かしらの配慮をするということで推進室の方で検討を始めているところです。障害者雇用ですが、高専機構からも雇用率を上げなさいということで指導がありまして1名だったのを2名に増やしまして、高専機構が言っている法定雇用率は充足しております。

【柳澤議長】

はい。よろしいでしょうか。あまり時間は残ってないのですが、何かご発言で付け加えることはあるでしょうか。それでは私から一つ。年度計画に沿って説明していただいたので、全体とし

では高専でどういう取り組みをされているかということは非常によくわかったのですが、その中で私が今回プレゼンの仕方にもよるんだと思うのですが、高専機構と個々の高専の関係ですが、そのあたりが注目点として、今回印象として受けたのですが、例えば議題1で「モデルコアカリキュラム」というのも高専機構の方から提示されて、それに添ってチェックされているということですが、これは大きな長期的な流れの中ではその高専機構からのある指示というか枠組みというのは、以前に比べると低くなっているというか、高専機構と個々の高専との関係というのはどうなりつつあるのかというのは、少し教えていただきたいです。

【鈴木校長】

では私から。非常に重要な点だと思います。高専は元々、地域に密着した地域独特の要請に応じてきたということがあり、全国規模ということで平準化してしまうのではないかと懸念する先生も多いわけです。

すなわち、今まで各高専は独立してやってきたので、51校ある国立高専がまとまった機構本部自身も、地域の独自性をどういうように保っていくのかに腐心しているところです。「コアカリキュラム」というのは最低限ここまでは高専生に教えようということで、カリキュラムの50%ぐらいは全国共通で教えようとするカリキュラムです。それ以外の50%で各高専の独自性を出してほしいということです。「コアカリキュラム」は高専機構が自由に作ったものではなく、全国の先生方が集まって、いろいろ検討し、最低これぐらいは必要という中で各高専の独自性を失わないようにしています。

ただ、議長がおっしゃったように、各高専は大学と比べて規模が小さく、効率化ということが求められます。まとめてする方がよい場合もあります。例えば、何か安全の基準を作るとか、各高専でやると非常に時間がかかります。だから、セキュリティの問題とか、いろんな教育の問題でもごく一部ですけれど、全体でした方が効率がいいものは全体でします。それはあくまで各高専の独自性といいますか、特色を保つようにということの配慮はされております。各高専ではなかなかできない海外インターンシップや、留学生の受け入れなどは高専機構が主導でしています。一方、各高専独自で行っている国際交流もあり、二本立てになっているような感じがします。将来的に議長が言われるように、高専機構が固くまとめるようになれば、各高専のよさが無くなるのではないかなというように、そういう議論は確かにございます。非常に重要なご指摘だと思います。

【柳澤議長】

私が続けて発言するのも変ですが、地域連携というのは校長先生が言われたように、各高専について非常にその特長を作る極めて重要なことだと思いますが、今日お伺いした中で、意外だなと思ったのは、議題4のところで、企業人材活用ということで、実際にこういう方に非常勤講師に来ていただきたいとか、そういうのは言われたけれど、正直そのレベルなのかという、もっと企業の人材を本格的に活用、本当はされているのかもしれないけど、今回説明・紹介していただいたものは、そんな本格的なものとは私には思えなかったのですが、当然そういう高専の特長をこれからも形成していくという意味では本格的に例えば企業人材なら企業人材の活用ということをもっと積極的にされるべきではないかというのが一つ印象ですが、少し誤解があるかもし

れませんけれど。

【鈴木校長】

今までは、卒業生も現役でお忙しい状態でしたが、第1期生もちょうど65歳を越すということで、時間に余裕のある方もいらっしゃると思いますし、また、非常に優秀な方が多いですから、是非そういう方を活用させていただきたいとは思っております。中山先生どうですか。

【中山高度技術教育研究センター長】

やはり、議長が言われるように、非常勤講師に来ていただいた程度に終わっています。その中で少し変わっているという点では、経営工学という科目に関しては、「愛テクフォーラム」の会員企業の方と本校のOBの方で講師を固めているということです。今後はやはり、今までとは全く違う発想で何か企画しないと、皆さん、企業人材の活用をやっていると言われるけど、本当の意味での活用はできないと思います。言われていることは確かだと思います。

【柳澤議長】

それでは、全体を通して委員の方でさらに付け加えて何かご発言があればと思いますが、よろしいでしょうか。それでは最後に鈴木校長から、一言ご挨拶お願いしたいと思います。

【鈴木校長】

本日は貴重なご意見を多数いただきましてありがとうございます。本日いただきましたご意見は、今後の本校の在り方を考える上においての検討の土台にさせていただきたいと思っております。また、この会議に限らず、日常的にでも結構ですので、本校の在り方についてご意見を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は本当にお忙しい中、本校の運営諮問会議にご出席賜りまして、ありがとうございます。

説 明 資 料

- ・平成24年度 年度計画
- ・入学者の確保，教育課程の編成について
- ・学生支援，生活支援について
- ・学寮運営について
- ・教育の質の向上と改善，国際交流について
- ・研究及び社会連携活動について
- ・優れた教員の確保，教育環境の整備，管理運営等について
- ・新居浜高専創立50周年記念事業について

平成24年度年度計画

1/4

	高専機構 年度計画(H24)	新居浜高専 年度計画(H24)
【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)	(1) 入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、国立高等専門学校(以下「高専」という)への理解を促進するとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けてのPR活動を行う。 また、高等専門学校制度創設50周年に向けて、公私立の高等専門学校協会と連携し、各種広報活動を行う。 ② 各高専における入学説明会、体験入学(オープンキャンパス)、学校説明会等の取組について調査し、その事例を各高専に周知するとともにその成果を分析する。 また、高専を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの活用を行うとともに、女子中学生対象の各高専における取組状況を調査し、事例を各高専と共有することで女子学生の志願者確保を推進する。 ③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各高専での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。 また、全国の中学生や保護者をはじめ、広く一般が閲覧できるWebコンテンツ及びDVDを制作する。 ④ 高専教育にふさわしい人材を選抜できるよう、入試方法の改善策について検討し、最寄地受験制度及び複数校受験制度等について、実施可能なものから随時導入する。 ⑤ 各高専・学科における学力水準の維持のための取組を調査し、その事例を各高専に周知する。 また、入学志願者に係る調査結果の分析を踏まえ、とりわけ入学志願者が減少している高専・学科においては入学志願者の確保策について検討し、改善を行う。	(1) 入学者の確保 ○継続して実施する事項 ① 中学校長会の新規理事校および校長が交代した理事校を校長・副校長が訪問し、教育・入試・進路等の概要を説明する。 ・創立50周年記念事業の実施や報道機関等をととして、積極的に広報を行う。 ・イベントや研修会などの開催案内をホームページに掲載すると共に、ケーブルテレビや記者クラブに情報を発信する。 ・月1回メールマガジンを発行する。学校訪問やイベント等、機会がある毎にメールマガジンへの登録案内を行う。 ・広報推進本部の入試広報担当、イベント担当、広報誌企画担当、ホームページ運営担当、メールマガジン担当が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るように、効率的な広報活動を行う。 ② 中学校長、進路指導主事等を対象に地区別学校説明会を開催する。パンフレットを活用し、女子中学生への広報に努める。また、女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。 ③ 中学生向けの新居浜高専紹介冊子「はばたけ！未来へ」、学校紹介DVD、学校説明会用CDやイベントで配付するリーフレットに就職・進学に関する最新情報を掲載する。また、「はばたけ！未来へ」には卒業生や在校生の情報を載せる。さらに、機構作成の広報資料を活用する。 ④ 入学生の成績と過去の学生の成績の比較・分析を継続して行う。 ⑤ 機構からの調査事例を参考にする。 ○新たに実施する事項 ・これまでの中学生対象に加え、保護者向けのPR小冊子作成・小学高学年への土曜塾等を検討し、在学生による出前講座の充実などターゲット別の広報活動を充実する。 ・広報の一環としてサテライトオフィスの設置を検討する。
(2) 教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)	(2) 教育課程の編成等 ① 再編した宮城・富山・香川・熊本地区の4高専における教育・研究体制の高度化を着実に進めるとともに、その他の各高専においてもそれぞれの特色や地域事情を踏まえ、学科構成や新分野の学科設置の在り方、専攻科の整備・充実の具体化に向け検討する。 また、平成21年度に実施したカリキュラムに関する調査結果、平成23年度のモデルコアカリキュラム(試案)の策定を踏まえ、高専に求められるニーズを踏まえたカリキュラム改革の在り方について引き続き検討し、高専におけるモデルコアカリキュラム(試案)適用に係る課題を検討する。 ② 地域や学生のニーズに応じた弾力的な学科編成とするため、学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討する。 ③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各高専共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各高専におけるTOEICの活用状況を調査し、その事例を各高専に周知する。 ④ 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。 また、卒業生アンケートを引き続き実施し、その結果を分析し各高専と共有する。 ⑤ 学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストを実施する。 ⑥ 各高専におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動への参加実績や取組状況を調査・分析し、各高専に周知することで、その実施を推進する。	(2) 教育課程の編成等 ○継続して実施する事項 ① ②機構が策定したモデルコアカリキュラムに基づいて講義内容を検討する。「学校改革推進室」の下に設置されている「将来計画検討WG」において高専の高度化に関して継続して検討を行う。 ③ 学習到達度試験「数学」、「物理」の結果を、各科目の担当教員が分析し、FDIに役立てる。 ・全学生が受験したTOEICの受験結果を参考に、英語力の向上を図る。 ④ 「勉強アンケート」および「授業アンケート」を継続し、その結果を分析し、学生および教員にフィードバックする。また、本科5年生および専攻科2年生の卒業・修了時に実施した学校評価アンケートの結果を、今後の教育改善に活かす。 ⑤ 機構が主催・共催するすべてのコンテストに参加するとともに、その他の高校生対象コンテスト等にも参加を推奨、支援する。また、学内の「ものづくりコンテスト」を開催する。 ⑥ 新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。 ○新たに実施する事項 ・地域ニーズに応じた専攻科の再編、あるいは専攻の新設に向けて検討する。
(3) 優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)	(3) 優れた教員の確保 ① 優れた教員を確保するため、各高専の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、高専における多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。 ② 長岡、豊橋両技術科学大学との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を実施する。 また、高等学校、大学、企業等との任期を付した人事交流を行うための方策について検討する。 ③ 各高専に対して、専門科目(理系の一般科目を含む)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用の促進を図り、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%をそれぞれ下回らないようにする。 ④ 男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進のため、男女共同参画宣言を踏まえ、女性教員の積極的な登用や女性教員の働きやすい環境の整備を進める。 ⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修会を企画・開催するとともに、全国高専教育フォーラム等で一般科目、専門科目の各領域ごとの高専間の連携を強化する。 また、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。 ⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。 ⑦ 60名以上の教員を国内外研究員として派遣するとともに、各高専において、教員の国内外の大学等での研究又は研修への参加を促進する。	(3) 優れた教員の確保 ○継続して実施する事項 ① 教員の採用については、すべて公募形式で行っているが、更に選考委員会や人事委員会において、優れた教員確保に努め、教員の採用に際し、高専教育に有用な種々の経歴を持つ人材にも留意する。 ・新規採用教員に対するFD体制を充実させる。 ② 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。 ③ 優れた教員を採用するため、教員採用の公募において、公募条件等を精査する。 ④ 女性教職員からの意見を参考にしながら、環境整備の検討、改善を推進し、教職員の採用・昇任に際し、男女共同参画社会宣言を尊重する。 ⑤ 機構が主催する研修会には、必ず1名以上が参加し、また、その結果については、教員会等で報告する。 ・教員の授業参観を、中学校・高等学校との間で相互に実施する。 ⑥ 機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰も継続して実施する(優秀教員、優秀担任)。 ⑦ 常勤教員による授業措置等、国内外研究員として参加しやすい環境(支援体制)を充実させる。 ○新たに実施する事項 ・女性教員や優れた教員の確保のためのシステムを検討する。

平成24年度年度計画

2/4

	高専機構 年度計画(H24)	新居浜高専 年度計画(H24)
(4)教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用 等)	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法をデータベース化し、各学校において利活用を推進する。 ② JABEE認定プログラムの更新・拡充を行うとともに、教育の質の向上に努める。 また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。 ③ サマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を促進するため、特色ある取組を各高専に周知するとともに支援を行う。 ④ 各高専の優れた教育実践例や取組事例を、総合データベース「KOALA」を活用して収集・公表し、各高専における教育方法の改善を促進する。 ⑤ 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を計画的に進める。 また、各高専の教育の質を保つために、評価結果及び改善の取組事例について総合データベース「KOALA」で共有する。 ⑥ 各高専におけるインターンシップへの取り組みを推進するとともに、産学官の連携による効果的なインターンシップの実施を推進する。 また、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、各高専の教員を中心とする検討部会において、「共同教育」の標準例等教育方法の充実方策について検討を進めるとともに、取組事例を取りまとめ、周知する。 ⑦ 企業技術者等を活用した教育の現状について調査を行い、特色ある事例について各高専に周知するとともに、総合データベース「KOALA」で、各高専における企業技術者等の人材情報の共有化を推進する。 ⑧ 技術科学大学を始めとする理工系大学との協議の場を設け、教員の研修、教育課程の改善、高専卒業生の継続教育などについて連携して推進する。 ⑨ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門部会において、メディア教材の普及を図り、各高専での利活用を促進する。 また、各高専の校内LANなどの必要な情報基盤について、スケールメリットを活かした一括調達手法の導入を含め、戦略的かつ計画的に整備を進める。	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ○継続して実施する事項 ①開発した教材や教育方法については、教員会で紹介すると共に、FD研修会での発表や「高専教育」等への投稿を推奨する。 ・WebClass(自学・自習)やアルク教材(授業、自学自習)の有効活用を図る。 ・科目間調整連絡会を継続し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。 ②JABEE推進室の委員会の下、教育の質の向上を図り、次期審査に向けて立ち上げられたワーキンググループにおいても、より具体的な活動計画について検討を行う。 ③四国地区高専間の学生会交流や全国高専交流会に参加する。 ・特色ある教育方法等の情報を、機会ある毎に、メール等により学内に周知する。 ④総合データベース「KOALA」で公表された教育実践例や取組例を参考にして、教育方法の改善を促進する。 ⑤機関別認証評価の結果を踏まえて、より一層、種々の改善に取り組む。 ⑥本科4年生および専攻科1年生全員がインターンシップを実施できるよう支援する。 ・新居浜工業高等専門学校技術振興協会「愛テクフォーラム」に登録されている企業と連携して、現職企業人による講義(経営工学)の充実を図る。また、他のCOOP教育についても実施する。 ・愛媛大学との包括協定により、非常勤講師の推薦(幹旋)やインターンシップ、ものづくりフェスタの開催などを実施する。 ⑦新居浜出身の大手企業退職者に非常勤講師として講義を担当してもらう。 ⑧四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修に参加する。 ⑨メディア教材の利活用を積極的に促進する。 ○新たに実施する事項 ・平成26年度受審予定の機関別認証評価に向けて、教育改善の取組について細部までチェックする。 ・地域連携、教育の高度化に向けた「エンジニアリング・デザインセンター」を組織する。
(5)学生支援・生活支援(メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育 等)	(5)学生支援・生活支援等 ① 各高専の教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、「学生支援・課外活動委員会」において、各高専のニーズや経済情勢等を踏まえた学生に対する就学支援・生活支援を推進する。 ② 各高専の図書館及び寄宿舎の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ策定した整備計画及び平成24年度整備方針に基づき、整備を推進する。 ③ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門部会において、メディア教材の普及を図り、各高専での利活用を促進する。 また、女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎等の整備を推進する。 ④ 各高専に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、高専機構HPに高専生を対象とした奨学団体への情報を掲示する。 また、奨学金について、産業界から支援を得るための方策を検討する。 ⑤ 平成23年3月に発生した東日本大震災により授業料等の納付が困難となった学生に対し、経済的理由により修学を断念することがないよう、授業料免除等の経済的支援を引き続き実施する。	(5)学生支援・生活支援等 ○継続して実施する事項 ①メンタルヘルスに関する講習会には、必ず1名以上が参加し、教員会等で報告し周知を図る。 ・メンタルヘルスに関する教職員向けの学内研修会を開催する。 ・昨年度設置された「特別支援教育推進室」を活用し、より一層の学生ケアに努める。 ②学生の図書館利用を推進する。(新入生への図書館利用案内、学生によるブックハンティング、クラス別利用状況の公開と表彰、読書感想文表彰など) ③各種奨学金制度(財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学金、財団法人関育英奨学会など)については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知(案内)を行う。 ④キャリア教育を推進するため、新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」を中心とした学生と地域産業界との情報交換の場を設ける。 ・校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。 ・企業説明会を継続して開催する。 ⑤東日本大震災を受けた学生に、経済支援制度があることを周知する。
(6)教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備 等)	(6)教育環境の整備・活用 ① 機構全体の視点に立った施設マネジメントの充実を行うとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として、施設管理に係るコストを把握し策定した整備計画に基づき、メンテナンスを実施する。また、実験・実習設備等の老朽化等の状況を確認し、その改善整備を推進する。併せて、モデル校によるコスト縮減状況のフォローアップを行う。 ② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の充実を行うため、施設の老朽度・狭小化、耐震性、ユニバーサルデザインの導入状況、実験・実習設備等の老朽化等の実態を調査・分析するとともに、その結果を踏まえて策定した整備計画に基づき、整備を推進する。 また、平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化を推進する。 併せて、東日本大震災の影響による、電力需給の逼迫が予想されることから、節電への取組を行う。 ③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を改訂したうえで配布するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	(6)教育環境の整備・活用 ○継続して実施する事項 ①施設・設備の利用率調査を計画的に実施し、より有効な活用法を検討する。 ・実験施設の安全面等の調査を引き続き行うとともに、地震だけではなく大規模災害等を踏まえ作成したマニュアルの周知徹底を図る。 ②引き続き校内の緑地整備を実施する。 ・校内環境に対する意識調査を実施する。 ・教育寮としての居住環境の機能改善を中心とした整備を検討する。 ・節電への取組を行う。 ③本校の安全マニュアル(学生版、教職員版)を配布し、有効活用する。 ・各実験科目のガイダンス時(初回実験時)に、安全教育を実施する。 ○新たに実施する事項 ・概算要求をしていた機械工学科及び環境材料工学科の実習棟の改修を含む「エンジニアリング・デザインセンター」の建物・設備について検討する。 ・基盤設備(ライフライン)の整備について検討を行い、防災機能の強化を図る。

平成24年度年度計画

3/4

	高専機構 年度計画(H24)	新居浜高専 年度計画(H24)
【2. 研究に関する事項 (外部資金獲得、産学連携、知財管理 等)】	2 研究に関する事項 ① 全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等の開催により、各高専における研究成果を発信する機会を設ける。また、各高専での科学研究費補助金等の外部資金獲得に関する調査を実施し、好事例の共有と活用を行う。 ② 研究成果を発表する各種機会を活用し、高専の研究成果について広く社会に公表するとともに「高専一技科大技術マッチングシステム－KNTnet－」、産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。 ③ 長岡・豊橋両技術科学大学との連携のもとで設置された「スーパー地域産学官連携本部」の活用により、各高専の研究成果の円滑な知的資産化を促進するとともに、平成23年度に構築した知的財産管理システムの運用を行い知的財産を有効かつ効率的に活用する。	2 研究に関する事項 ○継続して実施する事項 ① 教員会において科学研究費補助金等の申請の説明および推奨を行う。 ② 年間業績報告書を作成する。 ・新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。 ③ 本校の高度技術教育研究センターが中心となって、研究成果の発表を推奨する。 ・高度技術教育研究センターが中心となって、教員の研究を支援(奨励)し、その研究成果の知的財産化を推進する。 ○新たに実施する事項 ・教員の研究活動促進のため、特別奨励研究公募制度を発足させる。
【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入 等)】	3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ① 「地域共同テクノセンター」などの効果的な整備を促進するとともに、地域社会との連携の中心として機能するよう、利用状況等について調査を行い、各高専に分析結果を周知する。 ② 「高専一技科大技術マッチングシステム－KNTnet－」や産学官連携コーディネーターを活用し、高専のもつ技術シーズを地域社会に広く紹介するとともに、各高専における教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果などの情報の広報活動について調査し、その事例を各学校に周知する。 ③ 小中学校と連携した理科教育等の取り組みの実施状況について調査・分析し、結果を各高専に周知するとともに、特色ある取組については総合データベース「KOALA」を活用し各高専に周知する。 ④ 公開講座の参加者に対する満足度のアンケート調査を行うとともに、平成23年度の公開講座について満足度に関する傾向を分析し、各高専に分析結果を周知するとともに、特色ある取組およびコンテンツについては総合データベース「KOALA」を活用して各高専に周知する。 ⑤ 各高専単位で構成されている同窓会同士の連携を強化するため、平成21年度に立ち上げられた「全国高専同窓会連絡会」の活動を支援する。また、卒業生とのネットワーク作りに関する取組状況を調査し、その事例を各高専に周知する。 ⑥ -1 海外の教育機関との学術交流を推進し、学術交流協定に基づく交流活動を充実させるとともに、海外交流のなかで特に優れた取組については、各高専に周知し、国際交流活動の活性化を促す。 特に、シンガポールのポリテクニクス5校(平成23年度締結更新)、タイのキングモンクット工科大学ラカパン(平成22年度締結)及び香港VTC(平成23年度締結)については、包括学術交流協定に基づく学生の長期・短期交流プログラムの実施について検討する。 また、JICAを通じた海外への新たな技術協力の可能性について検討する。 ⑥ -2 海外への留学を希望する学生を支援するため、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットを各高専に配布し、学生の海外奨学金情報を充実させる。また、全高専を対象に派遣学生を募集し、安全面に十分配慮した上で海外インターンシップを実施する。 ⑦ 留学生の受入拡大のために「アジアの学生の高専体験プログラム」の実施及び全高専による外国人学生対象の3年次編入学試験を共同で実施し、英文パンフレット、HPを活用して、日本学生支援機構(JASSO)が実施する「外国人留学生のための進学説明会」に参加する等の広報に努めるとともに、必要な環境整備や私費外国人留学生のための奨学金確保等の受入体制強化に向けた取組を推進する。 また、全国共同利用施設として設置した留学生交流促進センターにおいて、留学生教育プログラムの企画を行うとともに留学生指導に関する研究会等を実施する。 さらに、施設面においても留学生の受入拡大に向けた寄宿舎等の整備を推進する。 ⑧ 各地区において、外国人留学生に対する研修等を企画し、実施する。	3 社会との連携、国際交流等に関する事項 ○継続して実施する事項 ① 企業との共同研究を促進しつつ、新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」の充実を図る。 ・地域で推進しているものづくり人材育成事業に積極的に参加する。 ② 産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。 ・新居浜高専研究シーズ集、高度技術教育研究センター報の充実を図る。 ③ 企業と連携し、学生が講師役を務める出前授業を継続する。 ・小、中学校の理科・技術系教員を対象にした研修会を開催する。 ④ 出前講座を含む各種イベント等においてアンケートを実施するとともに、KOALAを通じて内容の充実を図る。 ⑤ 学園祭(国領祭)において、卒業生の集いの場を設ける。 ・本科1、2年生を対象にした「卒業生講話」を継続して実施する。 ・同窓会と連携し、創立50周年記念事業を成功させる。 ・「全国高専同窓会連絡会」との連携を図る。 ⑥ -1 ポリテクニクスなどへの参加を検討する。 ⑥ -2 国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、機構が開催する研究会に参加する。 ・学術交流協定校での海外研修を引き続き実施する。 ・学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。 ⑦ 継続して留学生を受け入れ、留学生指導に関する研究会にも参加する。 ⑧ 留学生の研修旅行を実施する。 ○新たに実施する事項 ・国際感覚を身に付けさせるため、低学年での全員参加海外研修旅行の実施に向けて検討する。 ・機構実施に加え、本校独自の海外インターンシップの実施に向けて検討する。
【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流 等)】	4 管理運営に関する事項 ① -1 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ① -2 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。 ① -3 時宜を踏まえた内部監査項目の見直しを行い、発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。 ① -4 機構本部及び各高専の緊急時の連絡体制の強化を行う。 ② 各地区校長会などにおいて高専の管理運営の在り方について検討を進めるとともに、新任校長を対象とした高専の管理運営に関する「新任校長研修会」、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修「管理職研修」を実施する。 ③ 前期間中に実施した一元化業務の機構本部・高専間の業務分担及び事務処理方法の見直し、検討を行う。また、作成した「事務マニュアル」について、その内容の充実を行う。 また、IT資産管理システムにより、ソフトウェア管理を適正かつ効率的に行う。 ④ 事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を計画的に実施するとともに、国立大学法人、一般社団法人国立大学協会などが主催する研修会に参加させる。 また、職務に関して、特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰を行う。 ⑤ 事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。 ⑥ 各高専の校内LANシステムや高専統一の各種業務システムなどの情報基盤について、情報セキュリティ対策を計画的に進める。 また、情報セキュリティ対策に必要な実施手順など取り組み体制についても、計画的に整備を進める。	4 管理運営に関する事項 ○継続して実施する事項 ① -1 機構が行う調査に積極的に協力し、得られた情報の学内周知や有効活用に努める。 ① -2 セルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。 ① -3 高専間相互監査を活用し、相互に事務の適性化に努める。 ① -4 昨年度設置されたリスク管理室のもと、危機管理体制を強化する。 ② 四国地区校長会において、管理運営に関する情報を交換しながら、その在り方について検討する。 ・該当の研修会には参加する。 ③ 事務の効率化・合理化を図るため、本校の「事務マニュアル(案)」「業務手順書(案)」について引き続き検討する。 ④ 該当の研修会には参加する。 ・愛媛大学工学部主催の「工学部等技術部技術発表会」など各種研修会に参加する。 ⑤ 愛媛大学との人事交流を引き続き、計画的に行う。 ⑥ 高専機構の計画に沿って校内LANシステムの整備、高専統一の各種業務システムの導入を本校でも進めている。また、情報セキュリティ対策については、情報セキュリティ管理委員会と情報セキュリティ推進委員会において、機構本部の計画に沿って取り組み体制の整備を進める。

平成24年度年度計画

4/4

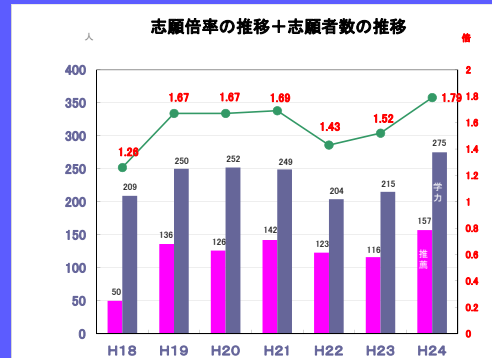
	高専機構 年度計画(H24)	新居浜高専 年度計画(H24)
【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し 等)】	5 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 運営費交付金を充当して行う業務については、業務の効率化を進め、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び当年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を行う。 また、各高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行うとともに、随意契約の見直し計画のフォローアップを適宜実施する。 Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。) 1 収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。 Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 施設・設備等の実態調査を踏まえて策定した整備計画に基づき、教育研究の推進や福利厚生などの改善のための整備を推進する。 また、実験・実習設備等の老朽化等の状況を確認し、その改善整備を推進する。 平成22年度に策定した省エネ化対策方針に基づき省エネ化も推進する。 なお、東日本大震災の影響による、電力需給の逼迫が予想されることから、節電への取組を行う。 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。 (2)人員に関する計画 常勤職員について、その職務能力を向上させるとともに、全体として効率化を図り、常勤職員の抑制をしつつ、国立高専の配置や学科構成並びに専攻科の在り方を見直しなどの高度化・再編・整備の方策の検討に応じて教職員配置の見直しを	5 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○継続して実施する事項 ・機構が発信する情報に基づき、業務の効率化を検討、推進し、目標達成を目指す。 ・外部資金の獲得を促進する。 ・業務の外部委託化、業務、事務の合理化、簡素化、契約方法の見直し及び運営経費の縮減に努める。 ・平成24年度の計画に基づき、施設設備改修等を行う。 ・施設有効利用の促進を図る。 ・新任教職員を対象に、校長、部長、主事、学科主任がそれぞれ「新任者研修」を行う。 ・本校の将来構想に基づき、業務運営の効率化を推進しながら、人員の適正配置を検討する。
【6. その他】	6 その他 平成22年4月より学生受入れを開始した仙台・富山・香川・熊本の4高専については、学年進行にあわせた施設・設備の整備計画に基づき整備を推進するとともに、教職員の配置を適切に計画する。	6 その他 ・50周年記念事業を引き続き実施する。 ・四国地区他高専との連携による合同事業を検討・推進する。

- ・入試倍率、就職状況
- ・議題1－1 入学者の確保
- ・議題1－2 教育課程の編成

教務主事 西谷 郁夫

平成24年度運営諮問会議(H25. 1. 17)

平成24年度本科入学選抜の状況



○平成24年度求人状況及び就職状況（本科）

平成24年度求人状況		平成24年11月末現在			
学 科	求 人 数	就職希望者数(A)	求人倍率	内定者数(B)	内定率(B/A)
機械工学科	514	31	16.6	28	90.3%
電気情報工学科	506	27	18.7	27	100.0%
電子制御工学科	425	26	16.3	24	92.3%
生物応用化学学科	246	19	12.9	18	94.7%
環境材料工学科	339	17	19.9	17	100.0%
計	2,030	120	16.9	114	95.0%

過去5年間の就職状況推移

学 科	平成24年11月末現在（単位：%）				
	平成20年度就職率	平成21年度就職率	平成22年度就職率	平成23年度就職率	平成24年度就職内定率
機械工学科	100.0	100.0	100.0	100.0	90.3
電気情報工学科	100.0	95.0	100.0	97.1	100.0
電子制御工学科	96.3	91.0	100.0	92.0	92.3
生物応用化学学科	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7
環境材料工学科	100.0	100.0	100.0	90.5	100.0
計	99.3	97.2	100.0	96.4	95.0

○平成24年度求人状況及び就職状況（専攻科）

平成24年度求人状況		平成24年11月末現在			
専 攻	求 人 数	就職希望者数(A)	求人倍率	内定者数(B)	内定率(B/A)
生産工学専攻	328	11	29.8	11	100.0%
生物応用化学専攻	208	4	52.0	4	100.0%
電子工学専攻	318	10	31.8	10	100.0%
計	854	25	34.2	25	100.0%

過去5年間の就職状況推移

専 攻	平成24年11月末現在（単位：%）				
	平成20年度就職率	平成21年度就職率	平成22年度就職率	平成23年度就職率	平成24年度就職内定率
生産工学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
生物応用化学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
電子工学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

平成24年度 主な就職内定先と進学予定先

（平成24年11月末現在）

	主な就職内定先	進学予定先
本 科	旭化成(株) 出光興産(株)	新居浜高専専攻科
	(株)NTTネオメイト 愛媛小林製薬(株)	豊橋技術科学大学
	花王(株) 関西電力(株) キヤノン(株)	長岡技術科学大学
	京セラ(株) 四国電力(株) JFEスチール(株)	福井大学 千葉大学
	(株)住化分析センター 住友化学(株)	電気通信大学 三重大学
	住友金属鉱山(株) 大鵬薬品工業(株)	岡山大学 広島大学
	中国電力(株) 東海旅客鉄道(株)	徳島大学 愛媛大学
	日工(株) (株)日本製鋼所	九州大学
	日本放送協会 富士通(株) 富士電機(株)	
	本田技研工業(株) マルホ発條工業(株)	
専攻科	三菱電機(株) (株)明治乳業	
	旭化成(株) NECフィールディング(株)	九州大学大学院
	(株)大塚製薬工場	奈良先端科学技術大学院大学
	住友化学(株) 住友金属鉱山(株)	
	大日精化工業(株) (株)ニコン	
	三菱ビルテクノサービス(株)	
	(株)四電エ レクザム(株)	

平成24年度5学年進路希望調査（本科）平成24年11月末現在（単位：人）

学 科	就職希望者	進学希望者	その他	計	備 考
機械工学科	31	10	1	42	
電気情報工学科	27	10	0	37	
電子制御工学科	26	15	1	42	
生物応用化学学科	19	11	2	32	
環境材料工学科	17	9	2	28	
計	120	55	6	181	

平成24年度2学年進路希望調査（専攻科）平成24年11月末現在（単位：人）

専 攻	就職希望者	進学希望者	その他	計	備 考
生産工学専攻	11	1	0	12	
生物応用化学専攻	4	2	0	6	
電子工学専攻	10	1	0	11	
計	25	4	0	29	

議題1ー1 入学者の確保について 平成24年度新居浜高专年度計画

1. 広報推進本部が中心となり、入学志願者数が前年度を上回るように、効果的な広報活動を行う。
2. 昨年度見直した入試方法について、その成果の分析を継続して行う。
3. 女子中学生への広報と女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。

1. 平成24年度入試広報状況(資料1-1)

広報推進本部(H19年度設置)

- (1) 入試広報担当
- (2) イベント担当
- (3) 広報誌編集企画担当
- (4) ホームページ運営担当
- (5) メールマガジン担当

(1) 入試広報担当

入試広報担当が中学校との窓口となり、教員が中学校訪問、進路説明会を分担して実施

・中学校訪問

1回目:6月上旬～8月下旬 訪問校141校
進路指導主事、3年学年主任等と面会し、本校の概要の説明および中学校からの情報収集

2回目:11月上旬～12月中旬 訪問校60校
学生募集要項を持参し募集内容の説明、受験希望者の情報を収集

・進路説明会への講師派遣 6月上旬～11月下旬、派遣校:52校

中学3年生と保護者を対象に、本校の特色、入試内容等を15分程度で説明

・校長会理事校への挨拶回り 5月

中学校部会長校 1校、新規理事校 9校、校長が交代した理事校 3校へ、校長、副校長が訪問

・地区別学校説明会 6月上旬～中旬

東予地区 26校、松山地区 19校、八幡浜地区 9校
宇和島地区 6校

(2) イベント担当

・夏季体験学習(7月27、28日 本校)

中学生を対象に、本校の施設や装置を使ってものづくりや実験を体験してもらう。

参加者:中学生 737人、保護者及び引率教員 170人

・ものづくりフェスタ in 松山(8月3、4日 愛媛大学城北キャンパス)

小中学生と保護者に、「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうとともに、新居浜高专を紹介する。

参加者:小中学生 63人、保護者 41人

・学校見学会(9月8日 本校)

中学生と保護者に、各学科の施設・設備、学生福利厚生施設、学寮等を見学してもらう。

参加者:中学生 234人、保護者 104人、教員19人

・入試情報コーナーの開設(11月3、4日 本校)

国領祭時に、入試情報コーナーを開設し、受験相談、展示、ビデオ上映、入試過去問題解説、学科別ミニ見学会を行う。

参加者:中学生 166人、保護者等 118人

・あかがね工業博2012(本校創立50周年及び新居浜市制施行75周年を記念事業)

ミニSL試乗コーナー、ものづくりコンテスト

・他機関主催のイベントへの参加

○春は子ども天国

主催:春は子ども天国実行委員会、(社)新居浜市観光協会

○ふるさとお宝探検

主催:ふるさとお宝探検実行委員会

○第16回科学体験フェスティバルin大洲

主催:大洲市、大洲市教育委員会

第16回科学体験フェスティバルin大洲実行委員会

○にいはまやんちゃKIDS 2012

主催:新居浜市社会福祉協議会

○第6回HAMA2ウインターフェスティバル 2012

主催:(社)新居浜青年会議所、まちづくり実行委員会

他 2件

夏季体験学習(7月27,28日 本校)

機械工学科



電子制御工学科



生物応用化学科



電気情報工学科



環境材料工学科



ものづくりフェスタ in 松山(8月3,4日 愛媛大学)



学校見学会(9月8日 本校)



あかがね工業博2012 (10月6,7日 本校)



ものづくりコンテスト (10月7日 本校)



国領祭での入試広報コーナー(11月3,4日 本校)

入試過去問題解説コーナーでは、数学と理科の過去の入学試験問題について、本校の教員が解説した。



(3) 広報誌編集企画担当

- ・「はばたけ！未来へ 2013」の作成 21,000部
新入生にアンケートを実施し、意見・要望を反映
 - ・本科学生募集ポスター(カレンダー付き)の作成 1,100枚
 - ・入試広報用クリアホルダーの作成 2,000枚
 - ・新居浜高専説明用CD版の作成 52枚
 - ・CATV用CMの作成
入試日程等の紹介CMを作成し、10月～12月にかけて、CATVで放送
 - ・平成25年度広報カレンダー(下敷仕様)の作成 20,000枚
県内外の中学2年生に配布(予定)
- など

平成25年度カレンダー



愛媛県の中中学校と香川、徳島、高知、岡山、広島県の一部の中学校に送付

(4) ホームページ運営担当

・ホームページを随時更新

(5) メールマガジン担当

・月1回メールマガジンを配信

・メールマガジンへの登録の呼びかけ

(6) その他

・在校生からのメッセージの送付

新入生全員の出身中学校に、近況報告として学生のメッセージと写真を送付

・新居浜高専キャッチコピー、イメージキャラクター募集
創立50周年を機に、本校の特色をアピールするとともに、広く地域の皆様が親しみを感じ、学生・教職員・卒業生が愛着と誇りを持てるキャッチコピー、イメージキャラクターの制定

2. 昨年度見直した入試方法について、その成果の分析を継続して行う。

入試(学力)成績と内申点の合計により合格者を決めているが、平成22年度入試からその重みを1:0.8から1:1に変更した。入学後の定期試験点への影響を調査中である。

3. 女子中学生への広報と女子学生の就職先企業の新規開拓に努める。

企業訪問の際、女子学生の就職について依頼や調査を行っている。また、女子学生の採用について、企業側の意見を聴取している。
今年度10月から発足した男女共同参画推進室においても、女子学生数を増やす方策について検討を始めた。

議題1-2 教育課程の編成について 平成24年度新居浜高専年度計画

1. 機構が策定したモデルコアカリキュラムに基づいて講義内容を検討する。
2. 全国高専学習到達度試験の受験結果を、学力向上と教員のFDに役立てる。
3. 新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。
4. 本科の高度化、地域ニーズに応じた専攻科の再編や専攻の新設について検討する。

1. 機構が策定したモデルコアカリキュラムに基づいて講義内容を検討する。

- ・モデルコアカリキュラムと本校開講科目の対応表を作成(7月~8月末)
- ・モデルコアカリキュラムWG会議を開催し(9/15)、対応に漏れている内容について関連科目担当者に検討依頼
- ・本校教職員対象のモデルコアカリキュラム説明会(10/16)
- ・今後は、漏れた内容の対応、シラバスへの記載方法の検討をする

高専の技術者教育に関係する備えるべき能力(モデルコアカリキュラム(試案))

・技術者が分野共通で備えるべき基礎的能力

I 数学

II 自然科学: II-A 物理、II-B 物理実験、II-C 化学、II-D 化学実験、II-E ライフサイエンス・アースサイエンス

III 人文・社会科学: III-A 国語、III-B 英語、III-C 社会

IV 工学基礎: IV-A 工学リテラシー(各種測定方法、データ処理、考察方法)、IV-B 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)、IV-C 情報リテラシー、IV-D 技術史、IV-E グローバリゼーション・異文化多文化理解

・技術者が備えるべき分野別の専門能力

V 分野別の専門工学: V-A 機械系分野、V-B 材料系分野、V-C 電気・電子系分野、V-D 情報系分野、V-E 化学・生物系分野、V-F 建設系分野、V-G 建築系分野

VI 分野別の工学実験・実習能力: VI-A 機械系分野、VI-B 材料系分野、VI-C 電気・電子系分野、VI-D 情報系分野、VI-E 化学・生物系分野、VI-F 建設系分野、VI-G 建築系分野

VII 専門的能力の実質化: VII-A インターンシップ、VII-B PBL教育、VII-C 共同教育

・技術者が備えるべき分野横断的能力

VIII 汎用的技能: VIII-A コミュニケーションスキル、VIII-B 合意形成、VIII-C 情報収集・活用・発信力、VIII-D 課題発見

VIII-E 論理的思考力

IX 態度・志向性(人間力): IX-A 主体性、IX-B 自己管理能力、IX-C 責任感、IX-D チームワーク力、IX-E リーダーシップ、IX-F 倫理観(独創性の尊重、公共心)、IX-G 未来志向性、キャリアデザイン力

X 総合的な学習経験と創造的思考力: X-A 創成能力、X-B エンジニアリングデザイン能力

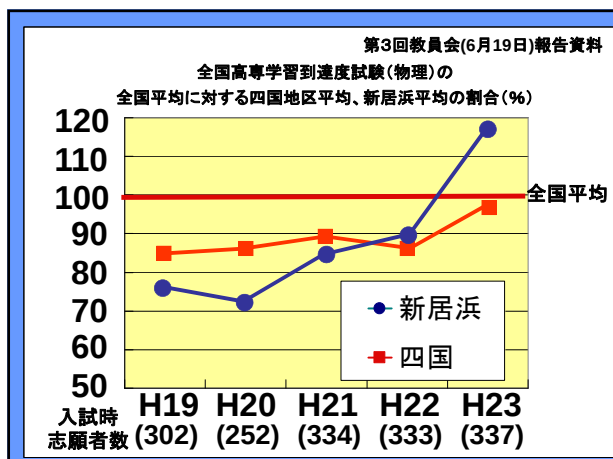
【専攻工課程における教育領域の到達目標】					
1. 目標 工学の基本的問題を解決するために必要な数学の知識、計算技術および応用能力を修得させ、この知識および技術等を工学における現象面と関連づけて活用する能力を養う。					
2. 学習内容の取り扱い 学習内容の取り扱いに関しては、次の事項に配慮するものとする。 (1) 中学校の学習の成果を活用するとともに、専攻科数学および物理・専門科目との連携を密にし、スムーズにカリキュラムが展開するように指導計画を作成する。 (2) 学習内容の履修学年については指定せず、高専毎の独自のカリキュラム設計に沿って柔軟に運用する。 (3) 学習内容の専門科目での履修を妨げるものではない。 (4) 下記以外の学習内容を取り扱うことを妨げるものではない。					
学習内容	学習内容の到達目標	専攻科の到達目標	到達レベル	科目名	実施学年
数と式の計算	数式の加減乗除の計算ができる。			数学A-1	1年
	公式等を利用して因数分解ができる。			数学A-1	1年
	分式の加減乗除の計算ができる。			数学A-1	1年
	整数・有理数の四則演算を理解し、百分率の基本的な計算ができる。			数学A-1	1年
	平方根の基本的な計算ができる(分倍の有理化も含む)。			数学A-1	1年
	整数の乗除を理解し、その加減乗除の計算ができる。			数学A-1	1年
	二次方程式を解くことができる(解の公式も含む)。			数学A-1	1年
	因数分解を利用して、基本的な二次方程式を解くことができる。			数学A-1	1年
	基本的な連立方程式を解くことができる。具体的には、1次式と2次式の連立方程式を解くことができる。			数学A-1	1年
	基本的な無理方程式・分母方程式を解くことができる。			数学A-1	1年
方程式・不等式	基本的な連立方程式を解くことができる。			数学A-1	1年
	1次式と2次式の連立方程式を解くことができる。			数学A-1	1年
	基本的な1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	1次不等式と2次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
	2次不等式と1次不等式を解くことができる。			数学A-1	1年
関数とグラフ	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年
	関数の性質を理解し、グラフをかきことができる。			数学A-1	1年

2. 全国高専学習到達度試験の受験結果を、学力向上と教員のFDに役立てる。

第3回教員会 6/19(火)において、科目担当者から、全国高専学習到達度試験数学、物理の結果、今後の計画について報告があった。(資料1-2-1,1-2-2)

3. 新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。

- ・奇術部が福祉公演を4回、ローターアクト部が子供向けボランティアを2回実施した。
- ・本校学生会が新居浜市との里親契約に基づき、一般学生や教職員に参加を呼びかけ、毎週1回本校西側道路を自主的に清掃している。



・里親清掃実施風景(校内)



毎週金曜日16:10から20分程度実施(雨天、試験中、長期休みは除外)。今年度は12月までに18回実施。参加は毎回30名程度。

4. 本科の高度化、地域ニーズに応じた専攻科の再編や専攻の新設について検討する。

- ・電気情報工学科と電子制御工学科の大括り化について、両学科で検討中である。
- ・高専の高度化に向けて、専攻科の生産工学専攻機械工学コースにおいては、地元企業ならびに大手企業からのヒアリングをもとにカリキュラムの見直しを行っている。
- ・専攻科生産工学専攻の機械工学コースと環境材料工学コースを独立した専攻とし、カリキュラムの改善を効率的に進められるよう検討している。

平成24年12月14日

平成24年度 入試広報実施状況

昨年度同様、優秀な学生の早期確保のため、中学校訪問及び説明会等を早期から実施した。

1 中学校訪問（1回目：6月上旬～8月下旬：訪問校 141校）

- (1) 対 象： 訪問先中学の進路指導主事，3年学年主任等
- (2) 内 容：・ 本校の概要，入試状況，進路状況，学寮，経費等の説明及び中学校からの情報収集など
- ・ イベント情報の説明（地区別学校説明会，夏季体験学習，ものづくりフェスタ in 松山，オープンキャンパス，入試情報コーナー（国領祭）の開催など）

〔配布物〕： はばたけ未来へ（3年生生徒数＋10部）

学生募集ポスター（カレンダー付）（3年生のクラス数＋1部）

夏季体験学習（ポスター1部，実施要項（3年生のクラス数＋1部））

ものづくりフェスタ in 松山（中予教育事務所管内の小・中学校，南予教育事務所「旧八幡浜教育事務所」管内の中学校にチラシ3部，実施要項3部）

オープンキャンパス実施要項（3年生のクラス数＋1部）

〔手持資料〕： 中学校別学年別在学者一覧，入試状況（昨年度分），就職・進学状況一覧（昨年度・本年度分），退学・留年状況（昨年度分），入学動機アンケート集計結果，学生・寮生動態調，中学校リスト，イベント情報の要項ほか

- (3) 訪問校：・ 愛媛県： 103校（島嶼部及び小規模中学校を除く。）
 - ・ 徳島県： 三好地区等：13校
 - ・ 香川県： 三豊地区等：11校
 - ・ 広島県： 福山地区：14校
- （訪問できない中学校には，配布物の資料を郵送する。）

2 愛媛県校長会理事校への挨拶廻り（5月）

- (1) 対 象： 中学校部会長校，新規理事校及び校長が交代した地区の中学校（四国中央市，新居浜市，西条市，今治市，松山市，東温市，伊予郡松前町，喜多郡内子町，八幡浜市，西宇和郡伊方町，西予市，宇和島市，北宇和郡鬼北町）

- (2) 内 容： 校長，副校長が，上記の13校に出向き，挨拶方々，本校の教育・入試・進路等の概要説明を行った。

〔持参資料〕： 学校案内，はばたけ未来へ，平成23年度卒業及び修了者の進路状況ほか

3 地区別学校説明会（6月上旬～中旬：4地区）

- (1) 対 象： 中学校の校長・進路指導主事等
- (2) 内 容： 校長，副校長（学生課長同行）が，下記の4地区で本校の教育・入試・

進路等の概要を説明し、本校の特色について理解を深めてもらうとともに、中学校の進路指導状況等についての情報交換を行った。

〔配布物〕： レジューメ，パワーポイントの印刷物，進路状況（昨年度分），入学料・授業料免除状況，イベント一覧，学校案内，はばたけ未来へ，学生募集ポスター，専攻科パンフ，学寮案内

〔手持資料〕： 配布物一式

- (3) 場 所： 東予地区，松山地区，八幡浜地区，宇和島地区の4地区
- (4) 日 時： 6月7日・8日・13日の3日間 1回：1時間30分程度
- (5) 参加校： 東予地区26校、松山地区19校、八幡浜地区9校、宇和島地区6校
- (6) 案 内： 各中学校長あてに案内通知，各教育委員会あてに開催通知

4 夏季体験学習（7月27日（金）～28日（土））

- (1) 対 象： 中学生
- (2) 内 容： 中学生に、本校の施設や実験装置を使った創造・製作・実験等を体験する機会を提供することにより、工学の魅力を少しでも知って貰い、進路決定の一助にして貰う。（10テーマで実施）
中学生は、体験学習（学科紹介を含む。）に参加
保護者・引率教員は、懇談会に参加
〔配付物〕： 中学生：（缶バッジ，アンケート用紙，はばたけ未来へ）
保護者等：（日程表，テーマ一覧，会場案内図，はばたけ未来へ，保護者懇談会時配付の進路先資料，クリアファイル）

- (3) 場 所： 本校
- (4) 参加者数： 中学生737名，保護者及び引率教員170名
- (5) 案 内： ア 県内全中学校及び香川県・徳島県・高知県・広島県・岡山県の一部の中学校へ案内状，実施要項，ポスターを郵送
イ 中学校訪問時に説明のうえ周知方依頼
ウ 新居浜市役所と市内公民館にポスター貼付依頼。新聞社等に実施要項を持参し広報依頼，HPにも掲載
- (6) その他： ア 学生に補助依頼（延べ176人（2日間））
イ 講座終了後に学寮見学を実施（希望者のみ）
ウ JR松山駅（30人）に借上バス，JR阿波池田駅（18人）にマイクロバスを配車

5 ものづくりフェスタ in 松山（8月3日（金）～4日（土））

- (1) 対 象： ア 中予教育事務所管内の小・中学生
イ 南予教育事務所「旧八幡浜教育事務所」管内の中学生
- (2) 内 容： 4年生以上の小学生及び中学生とその引率者に、夏休みを利用して「科学の不思議」や「ものづくりの楽しさ」を体験して貰うとともに、新居浜高専の紹介を行う。
小・中学生： ものづくり教室（2講座（M・E）），高専紹介コーナーに参加
引率者： 受験に関する相談会及び高専紹介コーナーに参加
〔配付物〕： 缶バッジ，アンケート用紙，はばたけ未来へ，高専機構のパンフレット，クリアホルダー
- (3) 場 所： 愛媛大学城北キャンパスの実験室

- (4) 参加者数：小学生 38 人，中学生 25 人，保護者見学 41 人
- (5) 案 内： ア 所管内の小・中学校に案内状，実施要項，チラシを郵送
イ 会場近郊の小学校あてに実施要項，チラシ（4・5・6 年生対象）を郵送のうえ配布方依頼
ウ 所管内の中学校を訪問時に実施要項，チラシを持参のうえ説明・配付方依頼
エ HP に掲載，関係機関に協力・周知方依頼
- (6) その他： ア 愛媛大学の協力のもとに実施
イ 学生に補助を依頼（延べ 15 人）

6 オープンキャンパス（9 月 8 日（土））午前の部，午後の部で実施）

- (1) 対 象： 中学生とその保護者
- (2) 内 容： 中学生とその保護者に，本校学生の案内で，各学科の教育，実験・実習施設の現況や学生福利厚生施設，学寮等の諸施設を見学，また，模擬授業を受講等により，本校の教育内容の概要を理解してもらう。
 - ・中学生・保護者： 学校案内のビデオ鑑賞，校内見学，模擬授業，質疑応答，学寮見学，（希望者のみ）を実施〔配布物〕： 日程表，キャンパスマップ，アンケート用紙，高専機構のパンフレット
- (3) 場 所： 本校
- (4) 参加者数：中学生 234 人，保護者 104 人，教員 19 人
- (5) 案 内： ア 県内全中学校及び香川県・徳島県・高知県・広島県・岡山県の一部の中学校へ案内状，実施要項を郵送
イ 中学校訪問の際に説明のうえ周知方依頼
ウ 新聞社等を実施要項を持参し広報依頼。HP にも掲載
- (6) その他： ア 学生に補助を依頼（35 人）
イ JR 新居浜駅（7 人），JR 松山駅（17 人）にマイクロバスを配車

7 中学校主催の進路説明会への講師派遣

（6 月上旬開始，10 月中旬～11 月下旬に集中）

- (1) 対 象： 中学 3 年生とその保護者
- (2) 内 容： 中学校で開催の進路説明会に本校から講師を派遣し，15 分程度の割当時間内に本校の特色，進路状況，入試状況等を説明する。
〔配布物〕： 進路説明会用リーフレット（3 年生生徒数＋保護者数）
（事前に郵送）
〔手持資料〕： 本校紹介 CD（パワーポイント），募集要項，入試情報コーナーのチラシ，中学校別学年別在学者一覧，入試状況（昨年度分），就職・進学状況一覧（前年度・本年度分），退学・留年状況（前年度分），入学動機アンケート集計結果，学生・寮生動態調，中学校リストほか
- (3) 要請校：52 校（四国中央市 5，新居浜市 10，西条市 8，今治市 11，東温市 1，久万高原町 1，八幡浜市 3，大洲市 3，宇和島市 3，西予市 1，愛南町 2，徳島三好 3，学習塾 1）

8 中学校訪問（2回目：11月上旬～12月中旬）

- (1) 対 象： 訪問先中学の進路指導主事，3年学年主任等
- (2) 内 容： 学生募集要項を持参のうえ募集内容の説明，本校受験希望者数の情報収集及び志願者確保のための訪問
併せて本校の概要，入試情報，進路状況等の説明
〔配布物〕： 学生募集要項 若干数
〔手持資料〕： 募集要項，中学校別学年別在学者一覧，入試状況（前年度分），就職・進学状況一覧（前年度・本年度分），退学・留年状況，入学動機アンケート集計結果，学生・寮生動態調，中学校リストほか
- (3) 訪問校： ア 愛媛県：55校（島嶼部及び小規模校を除く。）
イ 徳島県：4校（つるぎ町，東みよし町）
ウ 香川県：1校（観音寺市）

9 入試情報コーナー（11月3日（土）～4日（日））

国領祭時に「入試情報コーナー」を開設し，入試過去問題解説，受験相談，展示，ビデオ上映，学科別ミニ見学会を行った。41校（中学校）から、中学生166人，保護者等118人の来場があった、
また，入試過去問題解説には，数学72人，理科86人の出席者があった。

10 中学2年生に平成25年度広報カレンダー（下敷仕様）を送付（予定）

11 他機関主催の行事に参加しPR等を実施

(1) 「春は子ども天国」

- ・ 主 催 (社)新居浜市観光協会，春は子ども天国実行委員会
- ・ 期 日 平成24年5月5日(土)
- ・ 場 所 銅夢にいはま・登り道商店街
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験

(2) 「ふるさとお宝探検」

- ・ 主 催 ふるさとお宝探検実行委員会
- ・ 期 日 平成24年6月2日(土)・3日(日)
- ・ 場 所 美しが丘にいはま
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験，吹奏楽

(3) 「第16回科学体験フェスティバルin大洲」

- ・ 主 催 大洲市，大洲市教育委員会
第16回科学体験フェスティバルin大洲実行委員会
- ・ 期 日 平成24年10月27日(土)
- ・ 場 所 国立大洲青少年交流の家
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験，新居浜高専広報資料

(4) 「にいはまやんちゃKIDS 2012」

- ・ 主 催 新居浜市社会福祉協議会
- ・ 期 日 平成24年10月28日(日)
- ・ 場 所 新居浜市山根総合体育館
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験

(5) 「第39回金子校区文化祭」

- ・ 主 催 第39回金子校区文化祭実行委員会
- ・ 期 日 平成24年11月25日(日)
- ・ 場 所 新居浜市立金子小学校
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験

(6) 「第6回HAMA2ウィンターフェスティバル2012」

- ・ 主 催 (社)新居浜青年会議所, まちづくり実行委員会
- ・ 期 日 平成24年12月2日(日)
- ・ 場 所 マリンパーク新居浜(新居浜市垣生)
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験, 新居浜高専広報資料

(7) 「しこちゅー冬夜市」

- ・ 主 催 市民で灯そう10万の光り実行委員会, 四国中央市
- ・ 期 日 平成24年12月23日(日)
- ・ 場 所 イオン川之江店(四国中央市)
- ・ 出展内容 ミニSL乗車体験, 新居浜高専広報資料

12 入試広報誌等の作成等(WGで検討, 編集)

- (1) 「はばたけ!未来へ 2013」の作成(H24.4月下旬) 21,000部
- (2) 専攻科案内「専攻科2012」の作成(企業向け) 300部
- (3) 専攻科案内「専攻科2013」の作成(学生向け) 500部
- (4) 学生募集ポスター(カレンダー付)(中学校等配付用)の作成 1,100枚
- (5) 入試広報用クリアホルダーの作成 2,000枚
- (6) 中学校進路説明会用リーフレットの作成(学内で必要部数印刷)約16,000枚
- (7) 新居浜高専説明用CD版の作成(中学校進路説明会用パワーポイント) 52枚
(学内で必要枚数コピー)
- (8) ハートネットワークでCM放送(入試情報コーナー, 入試日程等)10月~12月
- (9) 平成25年度広報カレンダー(下敷仕様)(中学2年生配布用)作成(予定)
20,000枚
- (10) 中学生配付用缶バッジ作成 1,300個

13 その他

- (1) 1年生全員の母校に, 本校における近況報告として学生のメッセージ付写真を送付
(7月10日に送付) 教務係担当
- (2) 中学校からの依頼にもとづく「卒業生と語る会」への学生派遣
(新居浜市立中萩中学校) 教務係担当
- (3) 中学生・保護者からの申し出による校内案内(随時)

以上

平成23年度
学習達成度試
の結果について

数理科 物理

平成24年度 第3回教員会 (2012. 06. 19)

全国高専学習達成度試験(物理)

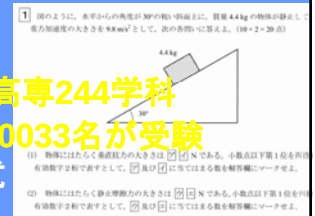
- ・平成19年度よりスタート(5回目)

- 3年生

- **H23年度は、52高専244学科
試験時間 90分
計10033名が受験**

- ・マークシート形式

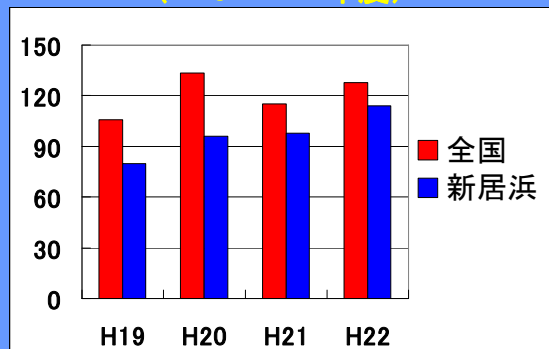
- ・ 出題學習領域 計8領域



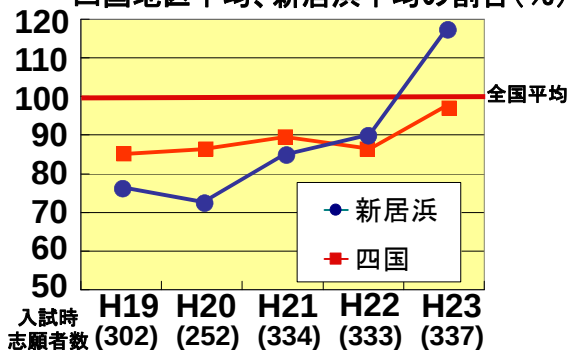
出題學習領域（各50点満点）

- § 1 速度・加速度・変位
 § 2 力のつりあいと運動方程式
 § 3 力学的エネルギー・衝突
 § 4 円運動・万有引力・単振動
 § 5 熱 **新居浜高専は6領域**
 § 6 波動 **(300点満点)**
 § 7 電気
 § 8 磁気 **全領域受験は全体の24%**

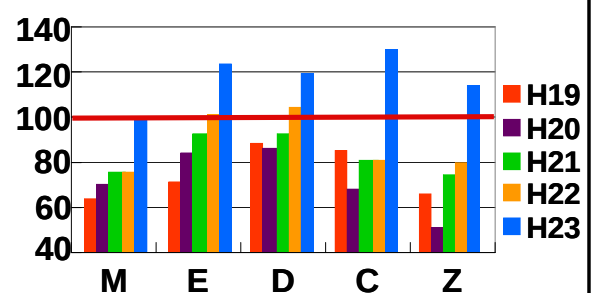
平均点(6領域300点満点)の推移
(H19～H22年度)



全国平均に対する
四国地区平均、新居浜平均の割合(%)



全国平均点に対する
新居浜高専学科別平均点の割合(%)



良かった原因と思われる点(今後も継続)

H21年度(現4年生の入学年度)から
教科書、シラバス内容を変更

(高専の物理、副読本(検定教科書))

H20年度途中より定期試験の途中退室が
禁止となった。

集中力の持続、最後まであきらめず
成績上位ランキング掲示効果(H20で)

物理(電磁気)の取り組み姿勢の向上

H23年度3年生(現4年生)は学年の雰囲気、
受講態度が非常に良かった。

教員会資料

日時：平成 24 年 6 月 19 日(火)16:10～，場所：第 1 会議室

平成 23 年度全国高専学習到達度試験(数学)について

数学科

概要：

- ・ H16,17 は四国共通試験として，H18 は全国高専学習到達度試験の試行として実施．H19 より本格実施となった．
- ・ 3 年生を対象に高専 3 年終了までの内容を 10 領域分け，マークシート形式で解答する．
- ・ 新居浜高専は当初から参加している．平成 20 年度からは 1 領域～8 領域までで参加．
- ・ 試験時間は 90 分．

成績：

- ・ 裏面．学科間の差が大きい．
- ・ H22 四国の平均点が全国の平均点を初めて凌いだ．新居浜の成績も上向き．
- ・ H23 新居浜は H22 より微増または同等．

本校の対応：

- ・ 平成 20 年度から試験対策として，前年度の学力確認試験を冬休みの課題として解かせている．普段の授業中でも復習しつつ進むことにしているが，平成 21 年度からは数学 A・3・2 の時間を 1 回割いて復習（過去問題を解かせるなど）を行うことにした．
- ・ 平成 23 年度は 12 月下旬の数学 A・3・2 の授業中に対策を行なった（平成 21 年度問題を解かせ，解説する．ただし，全範囲を復習する時間は無く，残ったものは各自に任せた）．
- ・ 平成 22 年度分を冬休みの課題にした．数学 A・3・2 の平常点に入れた．
- ・ SHR を利用して過去問題を解かせ解説した学科もあった．
- ・ 到達度試験の得点，解答説明を数学 A・3・2 の学年末試験返却週に実施した．

今後の対策等：

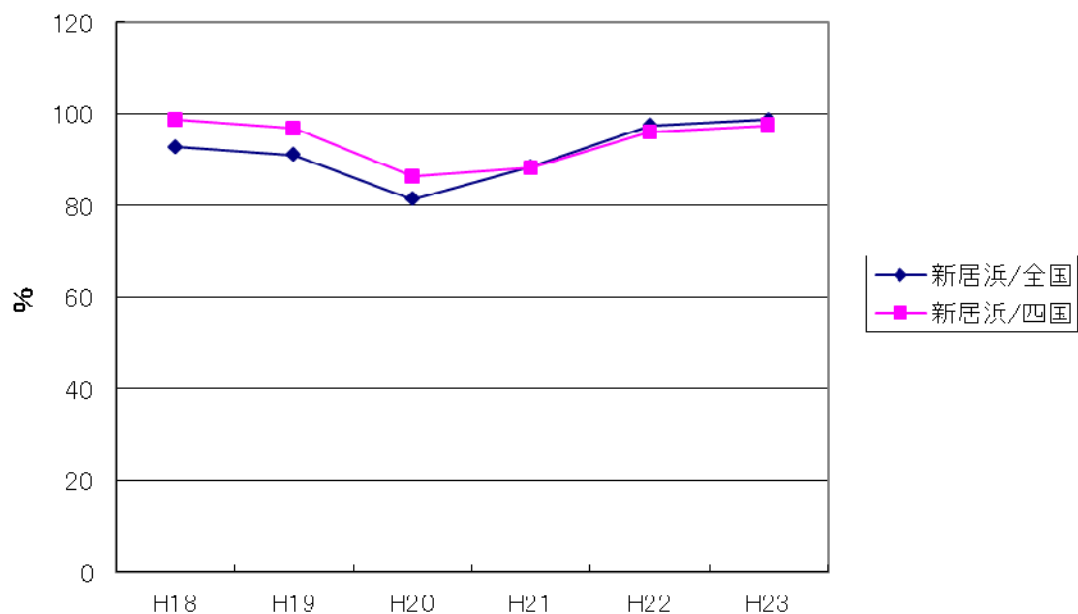
- ・ 学生はこの試験に対する意識が低い．
- ・ 学科による差も大きい．
- ・ 3 年生の数学の授業時間を削ることはこれ以上は難しく，数学教員だけでできることは限られている．できれば，担任に協力いただいて，SHR 等での過去問題を解かせ，解説をしていただくのが効果的と思われる．

平成23年度学習到達度試験 領域別一地区・学科別平均点

領域	履修学年	配点	全国	四国	新居浜	M	E	D	C	Z
1 数と式の計算	1	50	35.8	36.5	<u>35.9</u>	33.0	<u>39.8</u>	34.4	<u>39.4</u>	33.2
2 方程式・不等式	1	50	27.6	28.0	27.2	23.3	<u>29.1</u>	25.5	<u>33.5</u>	25.3
3 関数とグラフ	1	50	26.3	25.4	25.5	22.5	<u>30.0</u>	25.6	<u>27.2</u>	22.5
4 場合の数と数列	2	50	22.9	22.9	21.5	19.7	<u>24.1</u>	19.6	<u>25.5</u>	18.9
5 平面ベクトルの性質	2	50	29.1	30.0	27.6	24.9	<u>31.5</u>	28.3	<u>29.9</u>	23.2
6 微分・積分の計算	2	50	27.7	27.0	<u>29.7</u>	24.6	<u>34.4</u>	<u>29.4</u>	<u>35.6</u>	25.1
7 微分・積分の応用	2～3	50	16.9	17.4	16.8	12.5	<u>21.6</u>	14.0	<u>21.1</u>	16.1
8 空間ベクトル、行列の計算	2	50	20.6	22.3	19.9	17.1	<u>22.8</u>	<u>20.6</u>	<u>23.8</u>	15.0
9 行列の固有値と行列式	3									
10 2変数関数の微分・積分	3									
合計得点		400	206.9	209.5	204.1	177.6	<u>233.3</u>	197.4	<u>236</u>	179.3

(注) 下線は全国平均以上、色つきは全国平均の90%未満

全国、四国に対する新居浜高専の成績の推移



学生支援委員会

(平成24年度)

学生支援委員会

就学支援、生活支援及び就職支援等学生に対する支援に関する事項について調査審議を行う。

独立行政法人国立高等専門学校
機構規則第5号より

就学支援

- ・奨学金(日本学生支援機構・愛媛県)
- ・授業料免除

生活支援

- ・課外活動・学生会活動支援
- ・登校指導、校内外巡回
- ・各種コンテスト参加支援
- ・チャレンジプロジェクトの募集

就職支援

- ・企業説明会の開催
- ・キャリア教育プラザの運営

就学支援

授業料免除者

平成24年度

	2Z	4M	4E	4D	4C	4Z	5M	5E	5D	5C	5Z	1SM	1SE	1SC	2SM	2SE	2SC	計
前期	1	2	2	2	3	5	2	3	2	4	1	2	1	1	0	0	2	33
後期	1	3	4	2	2	5	1	3	0	5	1	2	1	0	0	0	1	31
合計	2	5	6	4	5	10	3	6	2	9	2	4	2	1	0	0	3	64

就学支援

奨学金受給者状況

平成24年度

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	小計	専攻科			計
							1学年	2学年	小計	
日本学生支援機構	23	22	23	30	29	127	4	5	9	136
愛媛県	6	10	5	10	6	37	0	0	0	37
その他	1	4	2	3	1	11	0	0	0	11
計	30	36	30	43	36	175	4	5	9	184

生活支援

学生会役員・学生支援委員会教員による登校指導・挨拶運動



生活支援 4月

クラブハウスの運用開始

●入居クラブ数 16

クラブハウス管理規則・クラブハウス使用心得を作成し、今年度4月10日運用を開始



生活支援 5月

学外研修(1年生)

・1年生

【実施日】平成24年5月18日(金)～19日(土)

【場 所】国立大洲青少年交流の家



生活支援 5月

学外研修(2～4年生)

・2年生

【実施日】平成24年5月25日(金)

【場 所】羊蹄丸・愛媛県総合科学博物館

・3年生(工場見学)

【場 所】M(5/17木): 羊蹄丸、嶺新来島どつく

E(5/18金): 四国電力嶺原子力保安研修所、本川発電所

D(5/18金): 四国電力嶺松山太陽光発電所、原子力保安研修所

C(5/25金): 株式会社福山工場、コスモ石油松坂出製油所

Z(5/11金): 住友化学株式会社愛媛工場、愛媛県産業技術研究所紙産業技術センター

・4年生(工場見学)

【場 所】M(5/17木): 三菱自動車工場水島製作所、タダノ高松工場

E(5/18金): 四国電力伊方発電所、せと風の丘パーク

D(5/18金): 四国電力松山太陽光発電所、原子力保安研修所

C(5/25金): 大塚製薬株式会社鳴門工場、松茂工場、(独)農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター四国研究センター

Z(5/11金): JFEスチール株式会社日本製鉄所福山地区、三菱自動車工業水島製鉄所

生活支援 5月

2輪車安全運転講習会

【実施日】平成24年5月26日(土)

【場 所】本校尚友会館前



生活支援 6月

応急手当講習会

6月22日(金) 1学年全員対象



生活支援 7月

高専体育大会激励会

【実施日】平成24年7月3日(火)

【場 所】第一体育館

7月 7日(土)～22日(日) 四国地区高専体育大会
7月13日(金) 高校野球愛媛県大会
7月14日(土) 西日本地区高専弓道大会



生活支援 7月

打ち水大作戦2012

高専打ち水大作戦7月18(水)・・・3年振りの開催

1800本のペットボトルを使用



生活支援 7月

第13回高専ソコヂカラ

【実施日】平成24年7月29日(日)

【場 所】銅夢にいはま



大会等結果 6月

愛媛県総合体育大会

バスケットボール	男子 2回戦 松山工 64-50 新居浜高専 男子 1回戦 伊予農 2-0 新居浜高専	剣道	男子団体 2回戦 丹原 5-0 新居浜高専 1回戦 愛光 4-1 新居浜高専 66kg 1M池浦大地 1回戦 1M亀山圭太 1回戦 73kg 3Z小川将樹 1回戦 81kg 1D伊藤稜二 2回戦 3M佐々木駿 2回戦
バレーボール	男子団体 1回戦 松山東 3-2 新居浜高専 男子シングルス 3M山田智寛 2回戦敗退	柔道 男子団体	個人戦
バドミントン	1回戦 松山東 3-2 新居浜高専 男子シングルス 3M山田智寛 2回戦敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
男子団体	2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退	卓球	男子団体 1回戦 南宇和 3-0 新居浜高専 男子団体 2回戦 松山南 3-0 新居浜高専 男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専
男子シングルス	3M山田智寛 2回戦敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
男子団体	2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退	卓球	男子団体 1回戦 南宇和 3-0 新居浜高専 男子団体 2回戦 松山南 3-0 新居浜高専 男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専
個人ダブルス	1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
個人シングルス	1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退	卓球	男子団体 1回戦 南宇和 3-0 新居浜高専 男子団体 2回戦 松山南 3-0 新居浜高専 男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専
ソフトテニス	男子団体 1回戦 南宇和 3-0 新居浜高専 男子団体 2回戦 松山南 3-0 新居浜高専 男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
テニス	男子団体 2回戦 松山南 3-0 新居浜高専 男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
ソフトボール	男子 1回戦 大洲 37-0 新居浜高専	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
弓道	17位/22校 3Z 武田安雄 予選敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
女子団体	17位/22校 3Z 武田安雄 予選敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退
男子個人	17位/22校 3Z 武田安雄 予選敗退	卓球	男子団体 2回戦 今治南 3-0 新居浜高専 2E 五十嵐侑・2Z 伊藤善紀 個人ダブルス 1回戦敗退 2Z 伊藤善紀 1回戦敗退

大会等結果 7月

第49回四国地区高等専門学校体育大会

総合優勝 高知工業高等専門学校

総合準優勝 新居浜工業高等専門学校

種目	新居浜	徳間	阿南	弓削	高松	高知
陸上競技	1	2	3	4	5	6
バレーボール男子	3	4	2	1	6	5
バレーボール女子	4	1	3	2	—	5
ソフトテニス	5	4	6	1	3	2
卓球	5	2	4	1	3	6
サッカー	6	1	5	2	4	3
バスケットボール男子	3	6	4	1	5	2
バスケットボール女子	6	1	5	3	4	2
柔道	4	2	5	3	1	6
剣道男子	2	3	4	5	1	6
剣道女子	—	—	—	—	—	—
硬式野球	5	1.5	3.5	1.5	6	3.5
水泳競技	5	6	4	1	2	3
テニス	4	3	6	2	1	5
バドミントン男子	4	3	2	1	6	5
バドミントン女子	—	—	—	—	—	—
ハンドボール	—	—	—	—	—	—
ラグビーフットボール	—	—	—	—	—	—
計	57	39.5	56.5	28.5	47	59.5
順位	2	5	3	6	4	1

大会等結果 8月

第47回(8/18~8/28) 全国高等専門学校体育大会

陸上競技(米子)	男子走高跳 4D 黒田航 13位 女子100m 1Z 安藤優里 7位 オープン男子1500m 4Z 鈴木悠馬 4分32秒12	バドミントン(米子)	団体戦(女子) 3位 個人戦シングルス(男子) 4D 北岡真一 3位 個人戦ダブルス(女子) 5C 飯尾奈々・3Z 橋本千草 準優勝 4Z 堀江みづき・2Z 堀江なつみ 初戦敗退 個人戦シングルス(女子) 5C 飯尾奈々 2回戦敗退 3Z 橋本千草 初戦敗退
バスケットボール(女子)(米子)	3位	水泳(広島)	男子800m自由形(タイム決勝種目) 2E 河村勇太 18位 女子100m平泳ぎ 1E 高橋和歌子 4位 男子200m平泳ぎ 5D 竹林元大 予選敗退 男子200m自由形 1M 伊藤康平 予選敗退 男子400m自由形(タイム決勝種目) 4D 星加恭兵 棄権 2E 河村勇太 17位 男子100m自由形 1M 伊藤康平 予選敗退 男子100m背泳ぎ 4D 星加恭兵 4位 女子50m背泳ぎ 2C 竹林美月 予選敗退 男子400mリレー 伊藤、河村、渡辺、星加 予選敗退
ソフトテニス(広島)	個人戦(女子) 1C 矢野美咲・1C 伊藤莉奈 初戦敗退	柔道(大島)	90kg級 5M 十亀史侍 3位
サッカー(宇部)	準優勝	テニス(松江)	個人戦ダブルス 5D 石川晃啓・4D 河端洋人 初戦敗退 個人戦シングルス 4C 滝本祐也 2回戦敗退

各種コンテスト

高専三大コンテスト

全国高等専門学校ロボットコンテスト

(ロボコン)

【実施日】2012年10月28日(日)四国地区大会

【主管校】高知高専

【結果】「たこゆー」ペストペット賞・特別賞
「ひうちちゃん」特別賞



全国高等専門学校デザインコンペティション

(デザコン)

【実施日】2012年11月10日(土)・11日(日)

【主管校】小山高専

【結果】<構造デザイン部門>「SECTOR」審査員特別賞



全国高等専門学校プログラミングコンテスト

(プロコン)

【実施日】<本選>2012年10月13日(土)・14日(日)

【主管校】有明高専

【結果】「よしだか-Lucky-Hawks-」が競技部門に出場



チャレンジプロジェクト2012

プロジェクト名	代表者	指導者	概要
核図表をつくる	藤本美波(4C)	中山 享	既知及び概念上の核種全てを配置した『核図表』の立体模型を作成し、あかがね工業博へ出展する。
資源ごみ回収機再生プロジェクト	金藤和洋(4M) 他5名	今西 望	故障のため長年使われていない空き缶・ペットボトル回収機を修理し、商店街のイベント時に設置し、地域に貢献する。



第47回
国領祭:「紅葉」
2012年11月3・4日(土・日)

- ・ 野外ステージ、ライブハウス
- ・ 学科展示……5学科
- ・ 文化部展示……8文化部
- ・ チャリティバザー
- ・ 献血
- ・ ちびっこサッカー大会
- ・ テニス大会
- ・ 燵会による創立50周年記念企画など

テント出店数……38店
一般来客……約3500名



四国地区高専総合文化祭



第34回
四国地区高専総合文化祭

- ・ 写真の部 佳作(1名)
- ・ 絵画の部 佳作(3名)
- ・ ミニロボットコンテスト アイデア倒れ賞
- ・ 英語スピーチコンテスト 自由弁論の部第3位



就職支援

企業説明会 平成25年2月5日(火)




(写真は昨年度の様子 平成24年2月7日)

就職支援





学寮運営について

2013.1.17
寮務主事 皆本佳計



学寮の現状

	向陽寮	雄風北寮	雄風南寮	蛭雪寮	青雲寮	清風寮	
定員	164	87	63	59	59	60	492
現員	90	53	38	59	57	59	356

1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
52	44	46	80	58	17
17	13	7	7	12	2

女子:内数

指導体制

- 寮務委員会
寮務主事 主事補(3名) 委員(5名) 学生課長
G,S,E M,E,D,C,Z
- 寮事務室 (8:30~17:00)
常勤 1名 非常勤 2名 (曜日で交代)
- 寮生会 20名
寮生会長 風紀委員会、文化委員会、体育委員会
生活委員会、環境衛生委員会
- 指導寮生会
指導寮生 14名 指導寮生補佐 26名
- 宿直 2名 原則全教員が担当
寮務委員は、2週間に1度の割合で。
- 日直 外部委託 (教員の負担軽減)

朝巡回・登校指導など

- 朝巡回 8:35~9:30 2名で
低学年寮(3棟)と女子寮
全居室
体調不良で寝ているものはいないか?
居室の使用状況
1階は戸締りの確認。

寮務委員の割当表

月	火	水	木	金
2名	2名	あいさつ 運動 4名	2名	あいさつ 運動 4名



朝のあいさつ運動

水曜日和金曜日 8:15 ~ 8:50

玄関に立ち、名札を受け取る
あいさつを交わす
お互いに顔を覚える

名札が残っている学生を確認
1階の戸締りを確認



行事

- 毎月1回
学年集会 21:30 ~ 23:00
居室訪問 21:00 ~ 22:00
- 4月 6,7日 リーダー研修 (1泊2日)
8日 入寮式
19日 前期寮生大会 (夜)
- 5月 12日 野外活動 (土曜日)
13日 大掃除、寮マッチ(日曜日)
- 6月 14日 1年生寮部屋替え
20日 寮祭
30日 保護者懇談会(土曜日)
- 7月 1日 保護者懇談会(日曜日)
27,28日 体験学習 (土曜日)
31日 閉寮
- 8/31~9/1 夏季リーダー研修 (1泊2日)





寮内外大掃除



寮マッチ



寮祭



防災訓練



納涼祭



夏季リーダー研修

- 9月 8日 学校見学会(土曜日)
9日 寮マッチ (日曜日)
- 11月 3,4日 国領祭(チャリティバザー)
12万円を日本赤十字社の『東日本大震災義援金』に寄付
- 12月 22日 掃除チェック・閉寮
- 1月 20日 寮マッチ (日曜日)
- 2月 26日 後期寮生大会・送別会
- 3月1,2,3日 部屋替え



指導内容・課題

➤ 寮則違反による退寮者

- ・ 飲酒喫煙 専攻科 2年生
- ・ 寮外生の招き入れ 4年生
- ・ 寮外生の招き入れ 5年生
- ・ 施錠中の建物へ侵入 5年生
- ・ 点呼後外出など 1年生

➤ 9月から1年生の私服持ち込み許可

➤ LANの有線化 (工事中)

➤ 女子寮の定員オーバーが心配

洗濯機の台数も不足

➤ 自転車置き場 (要望中)

議題4-1 教育の質の向上と改善 議題4-2 国際交流

教務主事 西谷郁夫
平成24年度運営諮問会議(H25. 1. 17)

議題4-1 教育の質の向上と改善についての 平成24年度 新居浜高専年度計画

1. FD研修の継続、強化
2. 本科4年生、専攻科1年生全員のインターンシップ実施
3. 愛媛大学との連携、企業人材の活用
4. 教育の高度化に向けたエンジニアリング・デザイン教育センターを組織する

1. FD研修の継続、強化

- ・教員会を毎月開催し、教育改善についての情報交換等を行っている。(資料4-1-1)
- ・教員研修会を様々な内容について開催する。(資料4-1-1)

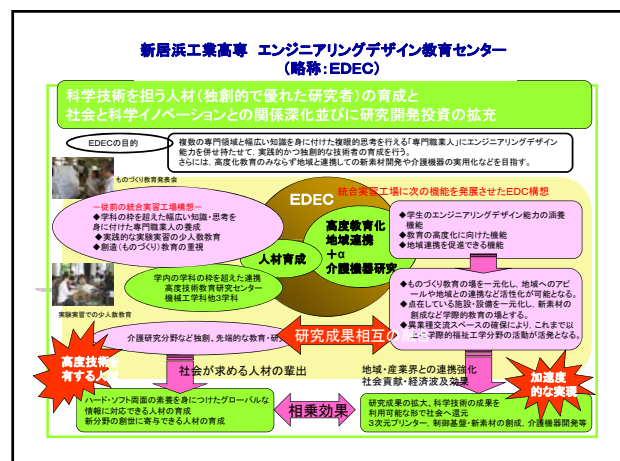
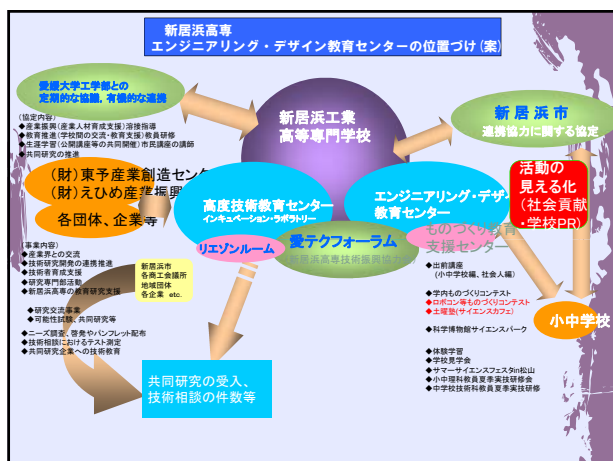
2. インターンシップ(本科4年生)、シニアインターンシップ(専攻科1年生)の全員参加

全員が夏季休業中にインターンシップを実施した。(資料4-1-2)
新居浜市と連携し、専攻科の生産工学専攻機械工学コースが、研修テーマを事前協議しながら実務型長期インターンシップを実施した。

3. 愛媛大学との連携、企業人材の活用

- ・8月3、4日愛媛大学を会場として、小中学生対象の「ものづくりフェスタin松山」を開催。小、中学生合わせて63名が参加。
- ・愛媛大学の8研究室(工学部6研究室(18名)、農学部2研究室(5名))でインターンシップを実施した。
- ・経営工学(5年生必修科目1単位)の非常勤講師1名、第50回工業技術懇談会(創立50周年記念事業)の講師1名が愛媛大学から派遣された。
- ・講義内容に適した現職企業人に経営工学(5年後期)講師を依頼した。また、大手機械メーカーを退職された方に、非常勤講師として電子制御工学科の電気機器、電気情報工学科の電気法規の授業を依頼した。

4. 地域連携、教育の高度化に向けたエンジニアリング・デザイン教育センターを組織する。



議題4-2 国際交流について 平成24年度 新居浜高専年度計画

1. 国際交流推進室が中心となって、一層の留学生指導を行うとともに、機構が開催する研究会に参加する。
2. 海外研修を引き続き実施するとともに、海外からの訪問学生との交流を行う。また、国際感覚を身に付けさせるため、低学年での全員参加海外研修旅行の実施を検討する。
3. 学生、教員とも海外インターンシップへの参加を推奨する。

1. 留学生指導

(1) 受け入れ実績 (S60～H24)

マレーシア:52名、中国:6名、ベトナム:5名、
モンゴル:5名、ラオス:2名、その他:12名
総計:82名

・現在の在籍者数(8名)

	機械工学	電気情報	電子制御	生物応用化学	環境材料
3年	マレーシア				インドネシア
4年	マレーシア		マレーシア	モンゴル	
5年	マレーシア	ベトナム		マレーシア	

(2) 留学生歓迎交流会 平成24年6月29日

留学生、学生、教職員、地域の国際交流団体が一同に会し、今年度新たに入学した留学生を歓迎するとともに、異文化の紹介、地域におけるボランティア活動の実施状況の紹介等の交流を通じて相互の理解と友好を深める。



(3) 外国人留学生研修旅行(10月) (日本文化体験、留学生の交流)

- ◆ 平成20年度:名古屋(トヨタ博物館他)、三重(伊勢神宮他)
- ◆ 平成21年度:別府、福岡(大宰府他)、広島(平和記念公園)
- ◆ 平成22年度:京都(金閣寺他)、奈良(東大寺)、大阪
- ◆ 平成23年度:愛知(トヨタ博物館)、三重(伊勢神宮他)
- ◆ 平成24年度:九州・広島方面(平成25年1月12日～14日)



(4) 留学生ウィーク

平成24年12月10日(月)～14日(金)

外国人留学生と彼らの母国を全校学生、教職員、地域の方に紹介し、相互に理解を深める。



母国紹介講演会



母国紹介パネル展示

2. 海外研修、海外からの訪問学生との交流 (1) 海外研修

・平成18年度 上海(中国)

訪問場所:上海電力学院、上海シャープ他

参加者:学生25名、教員2名

・平成19年度 シカゴ(アメリカ)

訪問場所:イリノイ大学、ルーズベルト大学他

参加者:学生30名、教員3名

・平成20年度 リズモア(オーストラリア)

訪問場所:サザンクロス大学他

参加者:学生18名、教員2名

目的:英語研修及び英語学習への動機付け

・平成21年度 リズモア(オーストラリア)

訪問場所: サザンクロス大学他

参加者: 学生8名、教員2名



・平成22年度 重慶、北京(中国)

訪問場所: 重慶工業職業技術学院、北京他

参加者: 学生8名、教員2名

目的: 発展著しい中国を体感し、国際的な視野と感覚を養う。



・平成23年度 リズモア(オーストラリア)

訪問場所: サザンクロス大学他

参加者: 学生21名、教員2名

目的: 英語研修及び英語学習への動機付け

・平成24年度 リズモア(オーストラリア)

訪問場所: サザンクロス大学他

日時: 平成25年3月3日～11日

参加者: 今年度から全学年から募集する。選考中。

目的: 英語研修及び英語学習への動機付け。

国際感覚を身に付けさせる。

(2) 2010年に学術交流協定を締結した
中国・重慶工業職業技術学院(CQIPC)の
李時雨院長を校長以下3名が表敬訪問
平成24年9月4日



(3) 10月16日(火)、日系ブラジル人研修生が来校



平成24年度教員会報告事項

回	日時・場所	報告者	報告事項
1	4/17(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		福光教員	TOEIC IPテストの結果について
		松田(雄)教員	オーストラリア短期研修旅行報告
2	5/15(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		近藤(武)財務補佐	公的研究費の適正な使用について
		福田教員	平成24年度中学校訪問について
3	6/19(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		高見教員	2011年度高専女子フォーラム
		千葉教員	全国高専学習到達度試験(数学)の結果について
		安里教員	全国高専学習到達度試験(物理)の結果について
4	7/17(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		早瀬教員、福光教員	香港VTC視察について
		野田教員	台湾視察報告
		塚野教員	四国統一試験(英語)の結果について
5	9/18(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		荒木専門員、藤田(早)総務企画担当	科学研究費について
		皆本教員	電気情報工学科教育改善について
		安藤学生主事	休日等クラブ活動安全管理指導員業務委託について
6	10/16(火) 16:10～ 視聴覚室	高知高専教務主事 勇 秀憲氏	モデルコアカリキュラムについて
7	11/20(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		松下財務企画係	平成24年度防災訓練について
		高見教員、橋本教員	第1, 2回技科大、高専コロキウムについて
		夢田教員	平成24年度教員研修(クラス経営・生活指導研修会)の報告
8	12/18(火) 16:10～ 第1会議室	3主事	主事報告
		事務部長	第4回中国四国男女共同参画シンポジウムについて
		谷脇教員	高専ティーチングポートフォリオ
		白井教員	障害学生ブロック別地域連携シンポジウム
9	1/15(火) 16:10～ 第1会議室		
10	2/19(火) 16:10～ 第1会議室		

平成24年度教職員研修会(本校開催分)

回	日時	講師	題目
1	6/12(火) 13:00～14:30	四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD) 坪井泰士氏(阿南高専学生主事)	高専の教育現場でおきている事例について、学生の人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の共同など広範囲な学生サポート力の獲得
2	9/19(水) 14:00 ～16:00	独立行政法人国立高等専門学校機構 高専一技科大連合 スーパー地域産官学連携本部 発明コーディネーター 清水榮松 弁理士	知的財産講習会
3	9/20(木)15:30～17:00	新居浜市立浮島小学校校長 西原勝則氏	高機能自閉症(アスペルガー症候群)を有する学生への具体的な支援について
4	9/28(金) 16:10～17:00	校長他3名	重慶工業職業技術学院訪問学内報告会
5	あかがね工業博 10/6(土)	住友重機械工業株式会社 金尾憲一氏	宇宙とものづくり
6	あかがね工業博 10/7(日)	日本総合研究所 主席研究員 藻谷浩介氏	数字でひもとく ものづくり日本 ものづくり新居浜
7	10/16(火) 16:10～17:00	高知高専教務主事 勇秀憲氏	モデルコアカリキュラム説明会
8	11/16(金) 14:00～16:40	(株)本田技術研究所・上席研究員 藤澤義和氏 愛媛大学大学院・教授 野村信福氏	第50回新居浜高専工業技術懇談会
9	12/3(月)15:30～17:00	ハローワークプラザ松山 早期就職支援職業指導ナビゲーター 村上由美子氏	教職員のメンタルヘルスに関する研修会(アサーション)
10			
11			

平成24年度 インターンシップ実績

1. 実施学年・学科・参加学生数

学 年 学 科	第 4 学 年					合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	
参加学生数	45 名	41 名	46 名	43 名	34 名	209 名
実 習 済 等	1 名	3 名	3 名	5 名	13 名	25 名
合 計	46 名	44 名	49 名	48 名	47 名	234 名

2. 地域別参加学生数

実習先	第 4 学 年					合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	
愛媛県内（54 機関）	28 名（20 機関）	21 名（18 機関）	22 名（10 機関）	26 名（13 機関）	21 名（17 機関）	118 名（48.2%）
四国（県外）（15 機関）	4 名（4 機関）	11 名（8 機関）	9 名（5 機関）	5 名（4 機関）	2 名（1 機関）	31 名（12.7%）
中国地区（14 機関）	4 名（4 機関）	3 名（3 機関）	8 名（4 機関）	6 名（5 機関）	4 名（4 機関）	25 名（10.2%）
近畿地区（26 機関）	10 名（10 機関）	4 名（4 機関）	11 名（9 機関）	5 名（5 機関）	5 名（4 機関）	35 名（14.3%）
中部地区（2 機関）	1 名（1 機関）	1 名（1 機関）	7 名（1 機関）	1 名（1 機関）	1 名（1 機関）	11 名（4.5%）
関東地区（16 機関）	6 名（6 機関）	6 名（6 機関）	7 名（5 機関）		1 名（1 機関）	20 名（8.2%）
九州地区（5 機関）	1 名（1 機関）	2 名（2 機関）	1 名（1 機関）	1 名（1 機関）		5 名（2.0%）
合 計（132 機関）	54 名（46 機関）	48 名（42 機関）	65 名（35 機関）	44 名（29 機関）	34 名（28 機関）	245 名（100.0%）
備 考	9名が2機関に参加	7名が2機関に参加	17名が2機関に参加 1名が3機関に参加	1名が2機関に参加		34名が2機関に参加 1名が3機関に参加

3. 期間別参加学生数

実習期間	第 4 学 年					合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	
7日間迄	24 名	17 名	44 名	5 名	6 名	13 名
8～14日間迄	30 名	31 名	21 名	39 名	28 名	168 名
合 計	54 名	48 名	65 名	44 名	34 名	245 名

平成24年度 シニア・インターンシップ実績

1. 実施学年・専攻・参加学生数

学年 専攻		生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	合計
参加学生数	第1学年	10 名	7 名	8 名	25 名
	第2学年			1 名	1 名
合計		10 名	7 名	9 名	26 名
備考				第1学年 1名不参加	

2. 地域別参加学生数

実習先	第 1 学 年			計
	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	
愛媛県内 (13 機関)	4 名 (4 機関)	1 名 (1 機関)	5 名 (4 機関)	10 名
四国(県外) (2 機関)		2 名 (2 機関)	1 名 (1 機関)	3 名
中国地区 (1 機関)	2 名 (2 機関)			2 名
近畿地区 (1 機関)	3 名 (3 機関)	2 名 (2 機関)		5 名
中部地区 (1 機関)			2 名 (2 機関)	2 名
関東地区 (1 機関)		1 名 (1 機関)		1 名
九州地区 (1 機関)		1 名 (1 機関)		1 名
その他地区 (1 機関)	1 名 (1 機関)			1 名
小計	10 名 (10 機関)	7 名 (7 機関)	8 名 (7 機関)	25 名
実習先	第 2 学 年			計
	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	
愛媛県内 (1 機関)			1 名 (1 機関)	1 名
小計			1 名 (1 機関)	1 名
合計	10 名 (10 機関)	7 名 (7 機関)	9 名 (7 機関)	26 名

3. 期間別参加学生数

実習期間	第 1 学 年			計
	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	
8～14日間迄		6 名	6 名	12 名
15日間以上	10 名	1 名	2 名	13 名
小 計	10 名	7 名	8 名	25 名
実習期間	第 2 学 年			計
	生産工学専攻	生物応用化学専攻	電子工学専攻	
8～14日間迄			1 名	1 名
15日間以上				
小 計			1 名	1 名
合 計	10 名	7 名	9 名	26 名

第8回運営諮問会議（平成25年1月17日(木)）

研究及び社会連携活動



高度技術教育研究センター・中山 享

① 研究活動

平成23年度年度計画

- ・教員会において科学研究費補助金等の申請の説明および推奨を行う。
- ・年間業績報告書を作成する。
- ・新居浜高等技術振興協力会「愛テクフォーラム」と連携して企業との共同研究を推進する。
- ・本校の高度技術教育研究センターが中心となって、研究成果の発表を推奨する。
- ・産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。
- ・高度技術教育研究センターが中心となって、教員の研究を支援（奨励）し、その研究成果の知的財産化を推進する。

平成24年度年度計画

- ・教員会において科学研究費補助金等の申請の説明及び推奨を行う。
- ・教員の研究活動促進のため、特別奨励研究公募制度を発足させる。
- ・産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。

- ・査読付き論文発表状況
- ・科研費申請・採択状況
- ・その他の外部資金導入状況
- ・展示会への参加状況
- ・知的財産状況

査読付き論文数

「年間業績報告」から算出

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	技術室	計
平成23(2011)年度	3 (2名)	2 (2名)	10 (3名)	19 (10名)	8 (2名)	9 (4名)	4 (3名)	5 (4名)	60
平成22(2010)年度	4 (3名)	6 (3名)	7 (5名)	10 (5名)	18 (6名)	3 (2名)	5 (5名)	4 (4名)	57
平成21(2009)年度	7 (5名)	3 (1名)	3 (2名)	15 (8名)	9 (3名)	14 (2名)	4 (3名)	0	55
平成20(2008)年度	5 (3名)	0 (6名)	11 (3名)	6 (3名)	12 (6名)	9 (2名)	9 (5名)	1 (1名)	51
平成19(2007)年度	4 (4名)	4 (3名)	5 (4名)	10 (5名)	10 (5名)	8 (4名)	1 (1名)	0	42
平成18(2006)年度	1 (3名)	11 (7名)	9 (6名)	8 (5名)	9 (5名)	9 (5名)	1 (1名)	0	48
計	24	26	45	68	66	51	23	10	313

平成18～22年度（5年間） 教員1名当たり・年間0.62編

平成23年度 教員1名当たり・年間0.69編
平成18～23年度（6年間） 教員1名当たり・年間0.63編
※1編以上は、全教員の65%
そのうち、10編以上は9名（最高は33編）

科研費申請数（研究代表者分のみ）

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	技術室	計
平成25(2013)年度	5	6	6	8	6	1	5	6	43
平成24(2012)年度	3	5	3	4	5	0	1	5	26
平成23(2011)年度	3	3	2	5	6	1	1	3	24
平成22(2010)年度	1	4	2	5	6	0	0	1	19
平成21(2009)年度	3	0	2	7	7	2	2	2	25
平成20(2008)年度	2	3	3	5	6	2	1	0	22
平成19(2007)年度	0	5	7	5	4	1	3	0	25
計	17	26	25	39	40	7	13	17	184

平成24年度の科研費申請数増加の取り組み

- 特別奨励研究公募制度の導入
前年度科研費に応募したが採択されなかった研究課題のうち原則A評価であった課題への研究費補助
- 校長から科研費申請の呼びかけ、校長による申請書のフラッシュアップ

科研費採択数（研究代表者のみ、()内は新規分）

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	技術室	計	交付額
平成24(2012)年度	1(1)	0	1	1	1	0	0	0	5	741万円
平成23(2011)年度	0	0	2(1)	2(0)	1(1)	1(1)	0	0	6	1,079万円
平成22(2010)年度	1(1)	1(0)	1(0)	2(1)	1(0)	1(0)	0	0	8	1,062万円
平成21(2009)年度	1(1)	1(0)	1(1)	3(1)	2(1)	1(1)	2(0)	0	11	1,589万円
平成20(2008)年度	1(1)	1(1)	0	3(3)	2(1)	1(1)	3(0)	0	11	1,764万円
平成19(2007)年度	0	1(0)	0	3(2)	1(1)	0	2(2)	0	7	1,260万円
計	4	4	5	14	8	5	8	0	48	7,475万円

科研費以外の外部資金導入実績

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	計
共同研究	10件 415万円	11件 602万円	17件 915万円	15件 692万円	12件 505万円	4件 560万円	65件 3,129万円
受託研究	10件 1,968万円	9件 1,089万円	11件 1,363万円	7件 1,091万円	4件 939万円	10件 547万円	41件 6,450万円
技術相談	172件	146件	169件	194件	179件	193件	860件
特許出願（発明書）	7件	1件	0件	3件	3件	1件（3件）	14件

全高専(51校)中の順位

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
共同研究	8位	14位	23位	21位
受託研究	4位	22位	25位	37位

JST(シース発編&A-step/受託研究)分開連

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
採択数（申請数）	6 (21)	3 (20)	1 (12)	1 (8)	2 (7)

その他/財団助成金リスト

H20年度	1件	220万円	天田金属加工機械技術振興会
H21年度	0件		
H22年度	1件	110万円	トスラム建材産業振興財団
H23年度	1件	100万円	マツダ財団

ひらめき☆ときめきサイエンス

～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

<プログラム名>
「自然エネルギーだけでも途切れない発電を！
～風力発電を助ける燃料電池技術～」

NHKからの取材
「いよ×イチ」で放映！

本校と(独)日本学術振興会との共催
小学5・6年生及び中学生を対象に
12月26日（水）に実施

小中高校生向け特別プログラム

ひらめき☆ときめきサイエンス

～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

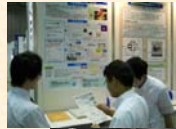
<プログラム名>
「自然エネルギーだけでも途切れない発電を！
～風力発電を助ける燃料電池技術～」

NHKからの取材
「いよ×イチ」で放映！

本校と(独)日本学術振興会との共催
小学5・6年生及び中学生を対象に
12月26日（水）に実施

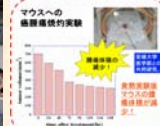
小中高校生向け特別プログラム

全国規模展示会への参加



「テクノフロンティア2012」
7月11日(水)～13日(金)
東京ビッグサイト(東京国際展示場)
誘導加熱で高い発熱を示す
微粒子材料

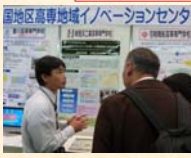
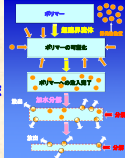
「四国地区高専地域イノベーションセンター」の専
属コーディネーターが中心と
なって、四国5高専がまと
まって参加している。



この取り組みは、平成21年度
新居浜高専が四国6高専の
産学連携の幹事校時に立案・
企画・実施し、その後も「四国
イノベーションセンター」が継
続している。

**「グリーン・イノベーション
EXPO2012」**
11月14日(水)～16日(金)
東京ビッグサイト(東京国際展示場)

生分解プラスチックを用いた
環境適応型塗料



知的財産状況

平成18年度～

教職員からの発明届け (新居浜高専知財委員会にて審査) 27件
高専機構への発明届け申請件数 26件
高専機構から承継決定件数 20件
特許出願件数 14件
審査請求依頼 7件
成立特許 3件

第5124745 「耐硫酸性成形体及び耐硫酸性成形体の製造方法」
第5124852 「X線CTによるアスベスト肺並びに中皮腫の自動診断装置」
第4951761 「生分解性ポリマーフィルム」の製造方法」

四国地区高専・知的財産紹介シート集
(四国地区高専地域イノベーションセンター＜知的財産部門＞)



その他

- ・新居浜高専研究者総覧 (平成16年度～、毎年4月に更新＜本校HP＞)
- ・新居浜高専・研究シーズ集 (平成18年度～、毎年4月に発行)
- ・海南タイムス誌に「新居浜高専技術シーズ」連載 (平成18年度～)
- ・新居浜市役所でのパネル展示 (平成16年度～)

新居浜高専研究者総覧

氏名	所属	研究分野
山本 隆夫	工学部	機械工学
佐藤 健一	工学部	電気工学
田中 秀雄	工学部	化学工学
鈴木 雅夫	工学部	材料工学
高橋 正樹	工学部	建築工学
中村 浩二	工学部	環境工学
小川 隆夫	工学部	情報工学
山崎 健一	工学部	生物工学
佐々木 雅夫	工学部	社会工学
渡辺 正樹	工学部	経営工学
三宅 浩二	工学部	医療工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋工学
鈴木 雅夫	工学部	航空工学
高橋 正樹	工学部	宇宙工学
中村 浩二	工学部	海洋工学
小川 隆夫	工学部	航空工学
山崎 健一	工学部	宇宙工学
佐々木 雅夫	工学部	海洋工学
渡辺 正樹	工学部	航空工学
三宅 浩二	工学部	宇宙工学
木村 隆夫	工学部	海洋工学
石川 健一	工学部	航空工学
清水 雅夫	工学部	宇宙工学
山本 浩二	工学部	海洋工学
佐藤 隆夫	工学部	航空工学
田中 健一	工学部	宇宙工学
鈴木 雅夫	工学部	海洋工学
高橋 正樹	工学部	航空工学
中村 浩二	工学部	宇宙工学
小川 隆夫	工学部	海洋工学
山崎 健一	工学部	航空工学
佐々木 雅夫	工学部	宇宙工学
渡辺 正樹	工学部	海洋工学
三宅 浩二	工学部	航空工学
木村 隆夫	工学部	宇宙工学
石川 健一	工学部	海洋工学
清水 雅夫	工学部	航空工学
山本 浩二	工学部	宇宙工学
佐藤 隆夫	工学部	海洋工学
田中 健一	工学部	航空工学
鈴木 雅夫	工学部	宇宙工学
高橋 正樹	工学部	海洋工学
中村 浩二	工学部	航空工学
小川 隆夫	工学部	宇宙工学
山崎 健一	工学部	海洋工学
佐々木 雅夫	工学部	航空工学
渡辺 正樹	工学部	宇宙工学
三宅 浩二	工学部	海洋工学
木村 隆夫	工学部	航空工学
石川 健一	工学部	宇宙工学
清水 雅夫	工学部	海洋工学
山本 浩二	工学部	航空工学
佐藤 隆夫	工学部	宇宙工学
田中 健一	工学部	海洋

特許6:30倶楽部 (財)東予産業創造センターが主催

第4期/平成24年度

実施場所の本校・リゾニールームの機器を増強し、2年ぶりに再開。

特許630倶楽部

「あなたの活動にもなる知的財産の上手な活用方法」

第1期 平成23年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第2期 平成24年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第3期 平成25年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第4期 平成26年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第5期 平成27年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第6期 平成28年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第7期 平成29年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第8期 平成30年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第9期 平成31年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第10期 平成32年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第11期 平成33年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第12期 平成34年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第13期 平成35年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第14期 平成36年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第15期 平成37年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第16期 平成38年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第17期 平成39年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第18期 平成40年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第19期 平成41年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第20期 平成42年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第21期 平成43年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第22期 平成44年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第23期 平成45年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第24期 平成46年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第25期 平成47年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第26期 平成48年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第27期 平成49年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第28期 平成50年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第29期 平成51年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第30期 平成52年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第31期 平成53年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第32期 平成54年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第33期 平成55年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第34期 平成56年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第35期 平成57年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第36期 平成58年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第37期 平成59年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第38期 平成60年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第39期 平成61年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第40期 平成62年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第41期 平成63年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第42期 平成64年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第43期 平成65年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第44期 平成66年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第45期 平成67年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第46期 平成68年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第47期 平成69年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第48期 平成70年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第49期 平成71年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第50期 平成72年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第51期 平成73年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第52期 平成74年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第53期 平成75年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第54期 平成76年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第55期 平成77年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第56期 平成78年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第57期 平成79年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第58期 平成80年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第59期 平成81年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第60期 平成82年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第61期 平成83年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第62期 平成84年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第63期 平成85年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第64期 平成86年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第65期 平成87年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第66期 平成88年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第67期 平成89年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第68期 平成90年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第69期 平成91年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第70期 平成92年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第71期 平成93年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第72期 平成94年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第73期 平成95年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第74期 平成96年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第75期 平成97年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第76期 平成98年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第77期 平成99年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第78期 平成100年度 1月22日(水) 18:30~20:30

第1期/平成20年度

プレセミナー 知的財産権の現状と必要性について

入門編 第1回 知的財産権の基礎

第2回 特許公報の読み方

第3回 特許の権利範囲

実践編 第1回 特許の書き方1

第2回 特許の書き方2

第3回 特許情報の検索と活用1

第4回 特許情報の検索と活用2

第5回 不正競争防止法とノウハウ

応用編 第1回 特許情報調査について1

第2回 特許情報調査について2

第2期/平成21年度

第1回 知的財産権の種類(特許、意匠、実用新案、商標等)と活用について

第2回 事前調査と公報の読み方

第3回 特許の権利範囲

第4回 特許の書き方1(基礎編)

第5回 特許の書き方2(基礎編)

第6回 特許の書き方3(応用編)

第3期/平成22年度

第1回 あなたの活動に生かせる知的財産権の上手な活用方法

第2回 特許の権利範囲と活用について

第3回 特許の書き方1

第4回 特許情報の検索と活用1

第5回 特許情報の検索と活用2

第6回 特許情報の検索と活用3

特許情報調査風景



特許情報調査風景



MOT「技術経営」勉強会

新居浜商工会議所との連携

平成23年2月29日(水) <第49回新居浜高専工業技術懇談会にて>

『Management of Technology「技術経営のはじめ」!』
「MOT「技術経営」勉強会プレセミナー」

愛媛大学社会 連携機構 副機構長(教授)
元 四国経済産業局 産業部長
土居 修身 先生




本科5年生を全員対象とした後期授業科目「経営工学」で2コマ
土居先生によるMOT関連の授業があり、学生から好評である。

土居先生を講師として、地域の企業技術者向けに継続した「MOT「技術経営」勉強会」の立ち上げを模索している。

地域企業との連携例 ①

- 愛媛県産廃棄果実及び果皮を用いたコンポストを用いた脱水汚泥ゼロエミッション計画。<愛媛県、世界へ!>
- 愛媛県産廃棄果実及び果皮を用いた醗酵産物は高温(60~80℃)で分解し、微生物が死滅せず、難分解性有機物のゼロエミッションが達成された。(通常のコンポストでは高温発酵することにより微生物が死滅し、ゼロエミッションの達成が困難である。)
- 難分解性有機物の新規有効処理技術の開発。



難分解性有機物分解菌のスクリーニング:
(透明な部分は高温でセルロースを分解している)



平成24年度/「三浦保環境賞」へ応募中
「愛の種」

連携先:
関西加工鋼<西条市・小松工場>

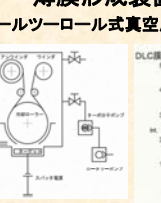
地域企業との連携例 ②

薄膜形成装置

ロールツーロール式真空成膜装置



展示会(東京)



DLC膜スライドガラス

DLX膜のラミネーションをガラス、ローレンス膜を用いて基板にコーティング

膜の分析・評価での技術支援
公的研究助成金への共同申請

ユースエンジニアリング㈱
<新居浜市/愛テックフォーラム法人会員>

「新居浜市正光寺山古墳群」発掘調査支援

新居浜市教育委員会



発掘調査前



発掘調査終了後

平成22年度/出土したガラス品中に含まれる成分分析を、新居浜高専が保有している蛍光X線分析装置と分析走査型電子顕微鏡で対応できるか検討した。

平成23年度/「ガラス管玉」11サンプルおよび「ガラス小玉」31サンプルの中に含まれる成分分析を行い、報告書の一部を執筆した。

ガラス製品の成分分析/執筆担当:第4章 第2節(pp.272-281)
『正光寺山古墳群-新居浜駅前土地区画整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
新居浜市教育委員会 (2012年3月30日発行)



出土した玉類



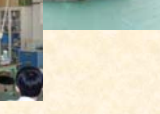
報告書

公園として整備後

その他

- 小中学生向け&一般市民向け出前講座 (平成16年度~)
- 中学校技術教員実技研修会&小中学校理科教員実技研修会 (平成16年度~)
- 長期シニアインターンシップ (平成20年度~) <機械工学科>
- 生産現場改善技術者養成研修 (平成22年度~) <機械工学科>
- 地域各種イベント企画・参加





ありがとうございました m(_)_m



高度技術教育研究センター
本館
(生物応用化学棟1階)



高度技術教育研究センター
別館
(インキュベーション・ラボラトリー)



優れた教員の確保, 教育環境の整備, 管理運営, 業務の効率化について

第8回運営諮問会議 (2013.1.17)
事務部長 五味 久和

優れた教員の確保 (高専機構 中期計画)

- ① 多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60 %を下回らないようにする。
- ② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることで人事制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。
- ③ 専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70 %、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80 %を下回らないようにする。
- ④ 女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。
- ⑤ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・デベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生活指導などに関する研修のため、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣する。
- ⑥ 教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。
- ⑦ 文部科学省の制度や外部資金を活用して、中期目標の期間中に、300名の教員に長期短期を問わず国内外の大学等で研究・研修する機会を設けるとともに、教員の国際学会への参加を促進する。

採用状況と人事交流

◆ 採用状況

多様な背景を持つ人材を確保するため、公募制を採用し、24年度は企業経験者を1名、他の高専から1名の計2名を採用した。

◆ 人事交流

24年度から「高専・両技科大間教員交流制度」により1名を東京工業高等専門学校へ2年間派遣中である。

新居浜高専の現状

学科・科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	環境材料工学科	数理科	一般教養科	合計
教員数	11	12	11	12	10	12	14	82
他機関での経験者	9	8	6	8	5	7	9	52
博士/修士	9/1	12/0	10/1	12/0	10/0	10/1	5/6	69/9
女性教員	0	0	1	1	1	0	1	4

25年1月1日現在

教員の表彰

◆ 平成24年度文部科学大臣表彰を受賞

科学技術に関する研究開発や理解増進などにおいて、顕著な成果を収めた者について表彰するもの。



「科学技術賞 理解増進部門」

電子制御工学科 教授 出口幹雄
マイコン応用製作物を通じた電子技術の教育普及や啓発活動が評価された。

「若手科学者賞」

環境材料工学科 准教授 高見静香

光を当てると色調や性質が変化するフォトクロミック分子について、特に赤や黄色に発色する安定的なフォトクロミック分子の物性についての研究が評価された。

教育環境の整備等

◆ 建物の耐震化

99.8%完了 (弓道場 射場を残すのみ)

◆ 基幹設備(ライフライン)の整備

現状の調査検討を行い、概算要求書を提出

◆ 営繕事業

- ・合併教室棟外壁・屋根防水等改修
- ・寄宿舎第1浴室給湯設備改修
- ・寄宿舎内情報ネットワーク整備 (25年3月竣工予定)
- ・敷地境界開閉更新整備 (")
- ・機械工学科棟トイレ改修 (")

教育環境の整備等

◆ マスタープランに基づく設備整備

- ・卓上走査型電子顕微鏡システム 1式 4,914千円 (更新)
環境材料工学科
- ・レーザーマイクロスコープ 1式 8,978千円 (更新)
高度技術教育研究センター

◆ 節電への取組

- ・高効率型空調機への更新を推進
- ・節電ポスターの作成配付
- ・昼休みの消灯やノーエアコンデーの完全実施
- ・電気使用量の推移を全教職員に周知

管理運営に関する事項 (高専機構 中期計画)

- ① 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するとともに、そのスケールメリットを生かし、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。
- ② 管理運営の在り方について、校長など学校運営に責任ある者による研究会を開催する。
- ③ 法人としてのスケールメリットを生かし、事務の効率化・合理化を図るため、共通システムの効率的な運用方法について検討を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。
- ④ 事務職員や技術職員の能力の向上のため、必要な研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける異業種体験的な研修などに職員を参加させる。
- ⑤ 事務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。
- ⑥ 「国民を守る情報セキュリティ戦略」等の政府方針を踏まえ、適切な情報セキュリティ対策を推進する。

管理運営に関する事項

◆ 教職員のコンプライアンス意識の向上

24年度から毎年1回、全教職員を対象にコンプライアンス・マニュアル(機構本部作成)を基にセルフチェックを実施。

◆ 事務職員及び技術職員の人事交流 (25年1月現在)

◇ 事務職員

目 的: 事務の活性化

実 績: 国立大学法人から3名受入れ

◇ 技術職員

な し

管理運営に関する事項

◆ 事務職員の研修

研 修 名	主 催	1/2 参加数
新任部課長研修	高専機構本部	2名
新任課長補佐・係長研修	高専機構本部	2名
新任職員研修	高専機構本部	3名
知的財産に関する講習会	高専機構本部	1名
施設担当職員研修会	高専機構本部	1名
学務関係職員研修会	高専機構本部	1名
給与実務担当者研修会	人事院四国事務局	1名
四国地区中堅職員研修	人事院四国事務局	1名
情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会	四国行政評価支局	1名
管理職のためのメンタルヘルス 研修会	四国地区大学教職員能力開発センター(SPOD)	1名
学務系職員養成プログラム研修(レベルⅡ)	四国地区大学教職員能力開発センター(SPOD)	2名
第一種衛生管理者免許試験に係る衛生管理者受験準備講習会	四国地区大学教職員能力開発センター(SPOD)	3名

25年1月現在

管理運営に関する事項

◆ 事務職員の研修

研 修 名	主 催	2/2 参加数
九州沖縄地区国立高専事務系職員研修	熊本高専	1名
中国・四国地区国立大学法人等係長研修	岡山大学	1名
中国・四国地区国立大学法人等公文書管理研修	鳥根大学	1名
愛媛大学法人文書管理研修会	愛媛大学	1名
職員語学(英語)研修	新居浜高専	10名

◆ 技術職員の研修

研 修 名	主 催	参加数
西日本地域高専技術職員特別研修会(建設・環境系)	熊本高専	1名
中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修・技術発表会	弓削商船高専	2名
中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修	鳥取大学	1名
中国・四国地区国立大学法人等技術職員マネジメント研究会	鳥取大学	1名
愛媛大学技術・技能職員研修(機械・環境建設系)	愛媛大学	1名
第一種衛生管理者免許試験に係る衛生管理者受験準備講習会	四国地区大学教職員能力開発センター(SPOD)	1名

25年1月現在

業務運営の効率化に関する事項

◆ 戦略的かつ計画的予算配分 (24年度)

- 学内競争的資金(公募型)
 - ・共同研究推進費 2,500千円
 - ・教育推進費 1,500千円
 - ・教育研究基盤設備整備推進費 (本部予算の関係上、配分なし)
- 特別奨励研究費(科研枠) 750千円
- 校長裁量経費 13,250千円

◆ 外部資金獲得の取組

- 科学研究費の採択数の増加に向けて校長による申請書のブラッシュアップを実施。
- 企業訪問及び研究室訪問等による産学官連携のPR活動を実施。
- 新居浜高専技術振興協力会や各種イベント(テックフロンティア2012、グリーンイノベーション EXPO 2012等)での研究紹介を行った。
- 研究シース集や研究パネル集を作成し、外部へ情報発信に活用した。

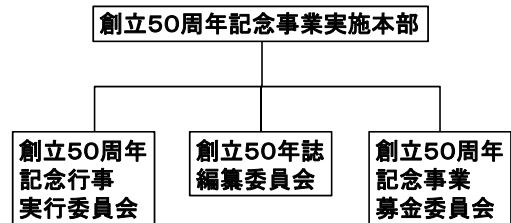
新居浜高専 創立50周年記念事業

新居浜工業高等専門学校は平成24年4月に創立50周年を迎えました



平成24年度運営諮問会議 (H25. 1. 17)

創立50周年記念事業実施体制



創立50周年記念行事

平成23年度

○記念講演会 【平成23年12月10日(土)】

平成24年度

○創立50周年記念式典

- ・式典
- ・記念講演会
- ・同窓会企画イベント
- ・学生企画イベント

○記念碑・モニュメント除幕式

○羊蹄丸一般公開事業

○あかがね工業博

○ものづくりコンテスト

○ホームカミングディイベント

創立50周年記念式典

日時:平成24年4月21日(土)10:00~

場所:新居浜市市民文化センター

来賓・学生・教職員 約1400名が出席

次第:

- ・校長式辞
- ・来賓祝辞
- ・誓いの言葉



校長式辞



誓いの言葉(学生会長)

記念講演会

日時:4月21日(土)11:10~

講師:喜多川 泰 氏 (作家・学習塾「聡明舎」代表)

演題:

「挑戦する勇気が未来を拓く」



同窓会企画イベント

日時:4月21日(土)13:30~

演題:先輩から学生へのメッセージ

講師:

- ・加藤 敏幸 氏【参議院議員】 昭和44年電気工学科卒
- ・露口 省二 氏【三浦工業(株)技術本部常勤顧問(前常務取締役)】 昭和48年金属工学科卒
- ・伊藤 正人 氏【パナソニック(株)役員(エナジー社社長)】 昭和49年機械工学科卒



学生企画イベント

日時:4月21日(土)14:30～

奇術部、吹奏楽部、声楽愛好会がパフォーマンスを披露



奇術部



吹奏楽部

声楽愛好会



記念碑・モニュメント除幕式

日時:4月21日(土)16:00～

会場:新居浜高専玄関前

モニュメントのテーマは、「現在・過去・未来の融合」



記念碑とモニュメント



除幕式



記念碑

新居浜市制施行75周年 新居浜高専創立50周年 羊蹄丸一般公開事業

日程:4月27日(金)～6月10日(日)

場所:黒島埠頭

ジオラマ



操舵室



新居浜市制施行75周年 新居浜高専創立50周年 羊蹄丸一般公開事業

船内で新居浜高専 出前講座(10テーマ15回)を実施

テーマ:

- ・液体窒素で冷やしてみよう
- ・七宝焼き体験
- ・電波に関するよもやま話
- ・パソコンを組み立てよう!
- ・プログラミング入門
- ・家庭のできる身近な発電
- ・たのしい電子工作
- ・3Dモデリングによるペーパークラフト作成
- ・世界でたった一つのマイ電池をつくらう
- ・「ミニSL蒸気機関車の乗車体験」

新居浜市制施行75周年 新居浜高専創立50周年 あかがね工業博 2012

会期:平成24年10月6日(土)、7日(日)

会場:新居浜高専

主なイベント:

- ・地域発! にいはま ものづくり塾
- ・わくわくものづくりカーニバル
- ・ものづくりコンテスト
- ・スゴ! 技 スゴ! もの 展示コーナー



オープニングセレモニー



主催:あかがね工業博実行委員会

地域発! にいはま ものづくり塾

10月6日(土)

講師:金尾 憲一氏(住友重機械工業株式会社)

演題:「宇宙とものづくり」

10月7日(日)

講師:藤谷 浩介氏(日本総合研究所 主席研究員)

午前「藤谷塾」(高専生・高校生を対象としたワークショップ)

午後 講演

演題:「数字でひもとく ものづくり日本 ものづくり新居浜」



講演「宇宙とものづくり」



藤谷塾

わくわくものづくりカーニバル

10月6日(土)、7日(日)

- 人カトロッコの運転とミニSLに乗りよう！
- 創立50周年記念メダルを作ろう！
- 高専生と一緒にものづくりを楽しもう！

ミニSL



記念メダル製作



わくわくものづくりカーニバル

○高専生と一緒にものづくりを楽しもう！

機械工学科

- ・恐竜ロボをつくろう！
- ・紙工作アラカルト！

電気情報工学科

- ・文字表示版を作ろう！
- ・卒業研究での製作物の展示・実演

電子制御工学科

- ・ブンブン・ピカピカをつくろう！
- ・たのしい！あかがねロボット・トレジャーハンターゲーム

生物応用化学科

- ・液体窒素で遊ぼう！
- ・身近な発電 いろいろなものから電気を作ってみよう～

環境材料工学科

- ・オリジナルキーホルダーを作ろう！七宝焼体験教室
- ・別子銅山の技術史研究
世界を巡ったローズレッドに輝く銅(神銅) ～「神吹(さおふき)」の再現～



ものづくりコンテスト 2012 in 新居浜高専

10月7日(日)

競技テーマ:

- 坂道を 二足で歩こう どこまでも
- ～二足で歩くおもちゃを製作し、坂道を下る距離を競おう～

参加者数: 小学生の部 49名
中学生の部 8名
一般の部 24名



スゴ！技 スゴ！もの 展示コーナー

10月6日(土)、7日(日)

- ・新居浜および周辺の34企業・団体の製品・技術をブース展示
- ・宇宙関連ものづくり展示コーナー開設



スゴ！技 スゴ！もの展示コーナー



宇宙関連ものづくり展

ホームカミングデイ(同窓会イベント)

日程: 11月3日(土)、4日(日)

会場: 第2体育館 他

内容:

- ・OB/バンドライブ
- ・門田洋子トークショー
- ・太鼓台運行
- ・写真パネル展示 等



太鼓台



OB/バンド



トークショー

平成 24 年度（第 8 回）

運営諮問会議報告書

平成 25 年 3 月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町 7 番 1 号

TEL：(0897)37-7700

FAX：(0897)37-7842

URL：http://www.niihama-nct.ac.jp/